

秘 密 獨 習 成 功 確 實

# 女 催 眠 術

古 屋 鐵 石 著

**無限の財**

著者多年研究の結果、最近の發見になれる進歩せる催眠術を、婦女と雖も自宅にて秘密に容易に獨習し、屹度成功する様簡明に秘訣を講述せり、自身又は家族に人に晰せぬ煩悶、藥物無効の病癖あらば試みよ妙効疑ひなし。

**病癖の消失**

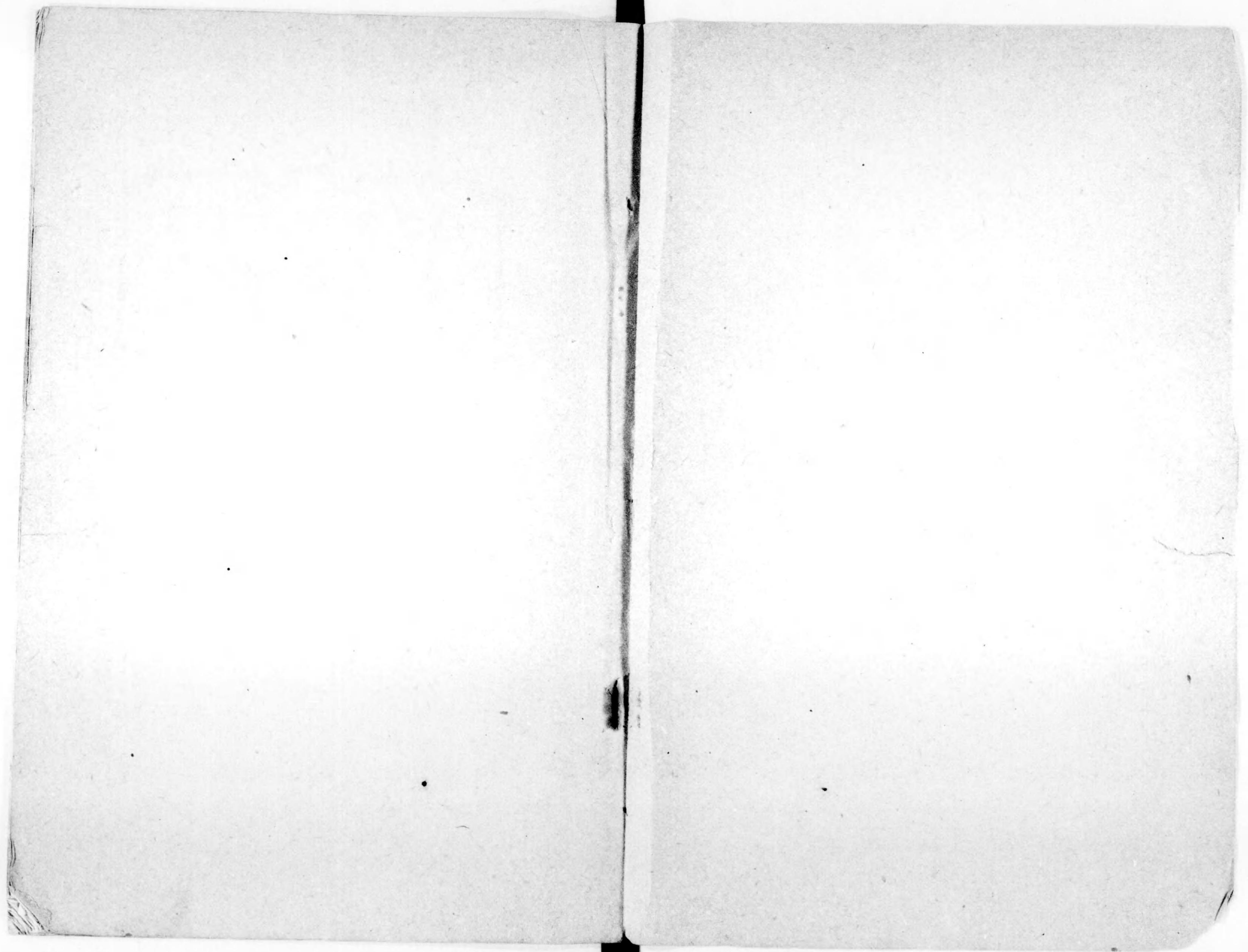


特



# 始





48103  
9421

秘 密 獨 習 成 功 確 實

# 女 催 眠 術

古 屋 鐵 石 著

精神研究會寄贈本

大 正  
8. 6. 9  
寄 贈



處ふ行を療治の進増力憶記  
(り然皆下以弟高の者著は者術)

大正 昭和  
五月 六月



處るせとんせ療治に度一を名四童兒



二小女に健康増進の暗を示す處

上段は小女四名を一に矯癖し居る處



下段の右は病弱を治療す處左の方遠は有様の語らむる處

## 自序

私が催眠術に志したるは、明治十九年にして今より三十二年前のことである、而して催眠術教授治療の看板を初めて掲げたるは、去る明治三十六年にして、本年は恰も其十五週年目に相當します、其間日々催眠術の實地教授をなし、治療をなし、通信教授をなし、著述をした、其れで私の門を出で催眠術で人を救済して居るもの、大日本帝國到處は勿論、歐米に跨りて無慮數萬名である、醫藥によりて治療の途なき重病人を私が全治せしめた數は數千名、私が著述した

書籍雜誌は實に二百有餘冊である、此經驗で此書を書いたので、此書に述べたる處は、從來の催眠術とは全く趣を異にしている、今此書の特徴とする點を一二左に擧げましせう。

一、此書に掲げた催眠術は香具師の行ふものと異なり、各國大學校の教科目と同一種であつて、高尚有益のものである事。

二、此書に掲げた催眠術は在來の催眠術と異り、單に哲學と科學との應用に依て成るものでなく、神の靈顯が加りて行はるゝものである、故に術者は學術應用の外に

宣教師僧侶又は神官に似た行ひをなす事。

三、此書に掲げた催眠術は、在來の催眠術と異り、單に學理の研究又は病癱者を癒し得るに留まらず、健康者をして益々健康ならしめ長壽せしむると共に、忠君愛國至誠博愛慈悲仁義敬神尊祖孝行動儉自彊の精神を涵養し不完全の人を完全の人となさんとするにある事。

四 一國の初は一家にあり、一家の幸不幸は其家族一同の心身が、健康にして快活なるにあり、故に斯術を應用して心身を健康とし、小にしては一身一家を榮えさし、大



にしては國家を繁榮ならしめんとするにある事。

五、婦女童蒙と雖も此書を読み実行せば、確に成功する様に解し易く斯術の奥儀を述べてある、故に成人の男子之を讀まば直に了解し得て、催眠應用精神治療家となり得る事。

六、自己或は家庭に藥石の効なき病癱者があるか、又は人に晰せぬ煩悶者があれば、職業の餘暇に此書を読み催眠術を獨習し、人に知れぬ様に其病癱を秘密に癒し得、又は催眠應用精神治療所を開業し得る實力を得ら

る、秘訣を説きある事。

七、殊に婦女に關せる面白き趣味ある有益なる諸問題を詳述しあり、讀んで面白きこと不思議なること小説も及ばぬ事。

八、催眠術に付き世人が誤解し居る問題、即ち催眠術を數多く受ると害があるとか、催眠した心持は夜睡眠したと同じ心持ちであると思ふが如き、世人の誤解し居る諸問題をよく解決しある事。

九、最も勇氣の涵養に力を盡し、斯術を應用して心身を鍛

錬し元氣を旺盛にし、職務に勤勉ならしめんとせる事、以上の九項を平易簡明に説述してある、故に此書は催眠術を簡易に獨習し得る様に説述したる而已に非ず、信仰心の養成、人格の涵養に力を盡して説いてある、學者此書を熟讀せられ、是等の主意が成る程と首肯せられ、之を實行して其効果を認めらるれば、私の光榮は之に過ぎません。

大正丁巳歲秋

古屋鐵石識す

秘密獨習  
成功確實  
女催眠術

目次

第一章 催眠術とは何ぞや……………一

第一節 催眠術の定義……………一

(一) 催眠術は全世界の支配者である……………一

(二) 催眠術は感受性を高めて暗示を感應せしむる法である……………三

(三) 催眠術は顯在精神を無想にして潜在精神を活動せしむる法である……………五

第二節 催眠術の品位……………七

(一) 催眠術は各國大學校の教科目である……………七

(二) 催眠術は神術である……………八

第三節

教育勅語の御主旨と催眠術の目的……………九

- (一) 催眠術は不完全の人を完全の人に變へる法である……………九
- (二) 不孝娘を孝行娘となした實例……………一〇
- (三) 姉妹の不和を矯正した實例……………一一
- (四) 不和の夫婦を仲よくした實例……………一二
- (五) 劣等の女學生を優等となした實例……………一三
- (六) 本夫の品行を矯正した實例……………一三
- (七) 意氣消沈の娘を元氣旺盛の娘となした實例……………一五
- (八) 小説や活動寫眞の催眠術は作り事である……………一七
- (九) 催眠術を早く研究せざりしを後悔せる伯爵夫人の告白……………一八
- (一〇) 催眠治療を早く受けなかりしを後悔せる男爵令嬢の告白……………二〇

第四節

催眠術と催眠術類似の諸術との關係……………二三

- (一) 感應術…靜座術 呼吸術…氣合術 即急術…心算術…心理療法…哲  
理療法…靈子術療法 暗示術療法は催眠術の一小部分である……………二三
- (二) 禁厭術は催眠術の一小部分である……………二五

第二章

催眠状態とは何ぞや……………二七

第一節

催眠状態の性質……………二七

- (一) 催眠状態の研究は何故に必要であるや……………二七
- (二) 催眠者の精神は宇宙精神と同體なりとの説……………二八
- (三) 催眠者の精神は神と合一せる状態なりとの説……………二九
- (四) 催眠者の顯在精神は無想なりとの説……………二九
- (五) 催眠者の肉體は腦小血及び呼吸平靜の状態にありとの説……………三〇

第二節

術者被術者意志の聯合……………三二

- (一) 意志の聯合とは何ぞや……………三二
- (二) 意志聯合を第三者に移す法……………三三

第三節

催眠深淺の判定法……………三四

- (一) 催眠程度の看破は最も必要なる所以……………三四
- (二) 恍惚状態とは何んな有様であるや……………三六
- (三) 止動状態とは何んな有様であるや……………三七
- (四) 眠遊状態とは何んな有様であるや……………三八

第四節

催眠中記憶の有無……………四〇

- (一) 催眠中の事をよく知つて居る催眠者と少しも知らずに居る催眠者とある道理……………四〇
- (二) 催眠した心持と睡眠した心持と異なる點……………四二

第五節

深催眠状態と覺醒状態との區別……………四三

- (一) 深い催眠状態にある人は眼を開きて歩行し漸をする……………四三

第六節

淺催眠状態と覺醒状態との區別……………四五

- (一) 催眠したとかせないとかの批評は素人はなすべからざる所以……………四五

第七節

催眠と睡眠との判定法……………四七

- (一) 催眠は暗示に感應するが睡眠は暗示に感應しない道理……………四七
- (二) 催眠は疲勞を忌むも睡眠は疲勞を忌まぬ道理……………四八

第八節

催眠術を數多く受くる利害……………五〇

- (一) 催眠術は數多く受けても何の害もない道理……………五〇
- (二) 催眠術は健康法長壽法として偉大の効果がある所以……………五三

第九節

催眠感受性の鑑定法……………五三

- (一) 催眠感受性とは何であるか……………五三

第三章

暗示感應法

第一節

暗示の性質

- (一) 催眠感受性を見分くる三大法……………五五
- (二) 暗示とは如何なるものぞや……………五七
- (三) 言語暗示と暗示との違ひ……………五八
- (四) 言語暗示と命令との違ひ……………五九
- (五) 言語暗示と説諭との違ひ……………六〇
- (六) 五大暗示とは何ぞや……………六〇
- (七) 暗示感應上必要の六大條件……………六三

第四章

催眠術を行ふ豫備行爲

第一節

術者に必要の精神修養

- ……………六七

第二節

催眠術室の準備

- (一) 術室の成功不成功は有形の方式の巧拙に非ずして無形の精神修養如何にある所以……………六七

第三節

術者に必要なる術者の態度

- (一) 催眠術室には如何の装置を要するや……………六九

第四節

術者に於ける術者の權威

- (一) 術者が術室するとき守るべき態度……………七一

第五節

被術者に注意すべき事項

- (一) 術者には權威の必要なる所以……………七一
- (二) 著者が術室を引き受くる條件……………七三
- (三) 催眠中の心持を如何に断すべきか……………七五
- (四) 深く催眠せざるは被術者の恥辱である所以……………七七

第六節 施術立會人に就ての注意……………七九

(一) 施術に立會人を要する所以……………七九

(二) 出張治療の場合に立會人に就ての注意……………八〇

第五章 催眠せしむる法……………八一

第一節 大人を催眠せしむる法……………八一

(一) 何人をも屹度催眠せしむる法……………八一

(二) 人間が催眠する原理……………八八

第二節 小兒及不具者を催眠せしむる法……………八九

(一) 小兒を催眠せしむる法……………八九

(二) 不具者を催眠せしむる法……………九二

第三節 拍手一つで催眠せしむる法……………九二

(一) 拍手口笛又は咳嗽にて催眠せしむる法……………九二

第四節 壹回の施術に要する時間……………九二

(一) 早く催眠する者は一秒間普通三十分時間を要する所以……………九二

第五節 催眠法變更必要の場合……………九四

(一) 如何なる場合に催眠法を代へざればならぬか……………九四

(二) 撫下法及言語法は如何なる被術者には不適當なるか……………九六

第六節 睡眠を除去する法……………九七

(一) 催眠に睡眠の混入せるは如何にして知るや……………九七

(二) 催眠に睡眠の混入せるを除去する法……………九七

(三) 如何にしても覺醒せぬ催眠者に對する處置……………九九

第七節 被術者の精神を看破する法……………九九

(一) 術者を欺かんとする被術者に對する處置……………九九

(二) 術者を欺かんとして看破されたる實例……………一〇一

第八節

患者を術者に紹介する場合の心得……………103

初回の施術に成功する秘訣……………104

(一) 初回の施術には如何なる被術者を可とするや……………104

第六章

催眠覺醒法……………105

第一節

催眠者を覺醒せしむる法……………105

(一) 精神的心理的生理的覺醒法とは何ぞや……………105

(二) 完全なる覺醒法は如何……………106

(三) 何故に除々と覺醒せしめざればならざるや……………106

第二節

催眠者を覺醒せしめ得る人……………109

(一) 催眠者を覺醒せしめ得ざる人……………109

第三節

容易に覺醒せざる催眠者……………110

(一) 覺醒法を行ふも覺醒せない催眠者に對する處置……………110

第七章

催眠術上に於ける不思議の現象……………113

第一節

觀念運動及摸擬運動を起す法……………113

(一) 觀念運動とは如何なることぞ……………113

(二) 摸擬運動とは如何なることぞ……………114

第二節

幻覺錯覺を起す法……………115

(一) 幻覺錯覺とは如何なることぞ……………115

(二) 物理學生理學にて説明し得ざる不思議の現象……………116

第三節

記憶を増減する法……………117

(一) 一度五官に觸れたることは終生忘れざる事實……………117

(二) 傾倒の原因を忘却させ又は記憶力を増進する事を得る所以……………119

第四節

精神を移送する法……………120

(一) 術者の精神と被術者の精神とは無線電信の如き働きをなす實例……………120

目次

第五節

人格を變換する法……………二三

(一) 男が女に老人が小兒に變換する事實……………二三

(二) 人格變換は治療上に大効がある所以……………二三

第六節

千里眼を養成する法……………二四

(一) 千里眼とは如何なる事ぞ……………二四

第八章

催眠術が學理上、教育上、宗教上に及ぼす効果……………二五

(一) 催眠術は學理上に如何なる効果あるや……………二五

(二) 催眠術は教育上に如何なる効果あるや……………二六

(三) 不良の子弟を有する家庭の福音……………二七

(四) 催眠術は宗教上に如何なる効果あるや……………二八

(五) 心靈を感得する唯一の方法……………二九

第九章

催眠治療の效果……………三〇

第一節

催眠治療で癒し得る病癍……………三一

(一) 後天的の病癍は癒るが先天的の病氣は癒らぬとの説の誤りなる所以……………三一

(二) 機質的の病氣は癒るが機能的の病氣は癒らぬとの説の誤りなる所以……………三一

(三) 能く催眠する人の病癍は癒るがよく催眠せない人の病癍は癒らぬとの説の誤りなる所以……………三一

(四) 大家が癒せなかつた病氣は癒らぬとする説の誤りなる所以……………三一

(五) 癒る病氣と癒らぬ病氣とを區別する最良の方法……………三一

(六) 催眠治療で確に癒し得る著名の病癍……………三一

第二節

藥物無効の病癍全治の實例……………三六

(一) 脊髄癱全治の實例……………三六

目次



- (一) 腸澀血全治の實例……………一四九
- (二) 痲瘋質斯全治の實例……………一五〇
- (三) 神經衰弱全治の實例……………一五〇
- (四) 子宮病全治の實例……………一五一
- (五) ヒステリー全治の實例……………一五二
- (六) 月經異狀全治の實例……………一五三
- (七) 陸炎全治の實例……………一五四
- (八) 子宮内膜炎全治の實例……………一五五
- (九) 惡阻全治の實例……………一五七
- (一〇) 嫉妬に基く煩悶全治の實例……………一五八
- (一一) 醜貌を美貌とせし實例……………一五九

- 第十章 催眠治療診斷法……………一五〇
- 第一節 催眠治療の診斷と藥物治療の診斷と異なる點……………一五〇
  - (一) 催眠治療獨特の診斷法……………一五二
  - (二) 催眠治療で癒る病人か否かを問診する法……………一五二
  - (三) 催眠治療で癒る病人か否かを望診する法……………一五三
  - (四) 催眠治療にて癒る病人か否かを觸診する法……………一五三
- 第二節 催眠治療を謝絶すべき病人……………一五六
  - (一) 藥物治療と催眠治療との長短……………一五六
  - (二) 如何なる病人には藥物治療又は外科治療を勧むべきか……………一五七
- 第十一章 催眠治療を行ふ方法……………一五九
- 第一節 催眠治療暗示法……………一五九

病癲治療の三大暗示法……………一五九

(一) 治療暗示の十二大法……………一六〇

(二) 患者に必ず與ふるを要する暗示……………一六一

(三) 催眠治療受術者への注意……………一八六

(一) 催眠治療受術者の修養法……………一八八

(二) 催眠中の心持の誤解を除くこと……………一九〇

(三) 催眠治療を受け効なきは受術者の罪である所以……………一九一

(四) 何事にも感謝の念なき病人は煩悶多くして癒り難い所以……………一九五

(五) 術者の注意を遵守する程早く癒る道理……………一九七

自己催眠法……………一九六

(一) 自己催眠は靜座法より行ふに易く効果が多い所以……………一九六

第十二章

自己催眠法

(一) 自己催眠にては暗示を如何にしてなすか……………一九七

(二) 自己催眠時間は如何にして定むるや……………一九八

(三) 自己で自己を催眠せしむる方法……………一九九

(四) 自己催眠者は如何にして覺醒するか……………二〇〇

(五) 自己催眠にては如何なる病癲が癒るや……………二〇一

(六) 自己催眠にては如何なる病癲が癒るや……………二〇二

明治天皇御製

何如ならん事に遇ても撓まぬは

わが敷島のやまとだましひ

秘密獨習女催眠術  
成功確實

古屋鐵右著

第一章 催眠術とは何ぞや

第一節 催眠術の定義

(一) 催眠術は全世界の支配者である

催眠術は個人  
人の利益と  
あると共に  
國家の利益  
である

催眠術の現象は實に奇妙不思議である、幾ら奇妙不思議であつても、眞理であり、事實であり、有益であり、高尚である以上は、之を研究して、其實益を擧ぐることは獨り個人の利益であるのみならず、確に國家の利益である、此世に於て吾人の目に映じ吾人の耳に觸るゝ處の凡ての人工物、即ち飛行機でも潜航

催眠術とは何ぞや

催眠術は森羅萬象を左右する

艇でも、單に人の手が造つたのでなくして、精神が手を働かして作つたものである、換言すれば精神作用で肉體を活動せしめて以て森羅萬象を造つたのである、吾人の一舉一動は悉く精神の發現である、其精神を左右する力を催眠術は持つて居る、故に催眠術は此世に於ける有形無形の森羅萬象を左右する力を持つて居る、然るに普通には森羅萬象を生ずる原動力の根本たる精神を忘れ、單に精神作用の結果たる物質のみを見て、物質萬能主義を唱ふるものもあるも、其れは原因を見ずして結果のみを見たのである、彼の爛熳たる櫻花を見て、櫻花の咲いて居る枝のみ珍重し、其根を忘れたると同じである、美花を望まば其根を培養せざればならぬ、根は即ち精神である、精神を培養せざれば其人の行爲に美花を望むも得られません、近來一般の人々が茲に心附いて精神の研究に注意を拂ふ様になりました、故に催眠術は從來の物質主義に代て、小にしては一身一家を左右し、大にしては全世界の支配者であると思ひます。

(二) 催眠術は感受性を高めて暗示を感應せしむる法である

催眠術の定義に二種あり一を感受性亢進説と云ひ、他を潜在精神活動説と申します、感受性亢進説の定義としては、催眠術は暗示感受性を高めて暗示を感應せしむるものである、茲に云ふ感受性とは術者の暗示をよく受け入る、性質と云ふ意である、術者が被術者を催眠せしむるのは何の爲めであるか、詰り被術者の感受性を高める手段である、催眠せしむるは暗示を能く感應する状態を作るのであります、そこで疑問が起りますのは術者が更に催眠法の形式を採らないで、單に被術者の身邊に近づいて『お嬢さんは快活にニコくする』と暗示をすれば、今の今迄沈みて鬱めて居た令嬢が、全く別人の様にニコくして快活になる、或は『お嬢さんは畫をお上手に書く』と暗示すれば、日頃畫が更にか

感受性亢進説

催眠の令嬢  
突快活に  
なる

催眠術とは何ぞや

令嬢一瞬間に催眠せしめらる

けなかつた令嬢が、即座に立派の畫を書く、然う云ふ現象を見る、と感受性を高める即ち催眠法を行はない、故に催眠術ではないやうに見えますけれども、それは單に感受性を高める法として、複雑なる手段を採らないのに外ならないので、實際に於ては其被術者の感受性は高められたのであります、其高める方法が真に一瞬間に行はれたので氣が附かなかつたのであります、其證據には暗示が感應するを以て明かである、例へば此コップに水を注ぐ場合にコップに水が注がれるのは、コップの中に空虚が有つたからである、若し空虚が少しも無ければ、水は溢れてしまふ、それと同様に、感受性が高まつて居なければ暗示が感應しない、暗示が感應する以上は、感受性が高まつて居たのである即ちコップに空虚があつたのである、其空虚を感受性と見るのであります、故に事更に副雜したる催眠の形式を行はず術者が被術者を一眼見る、其一眼見た其の一瞬間に催眠法が行はれ、感受性は高められ、暗示はよく感應したのであります、

故に催眠術は感應性を高めて暗示を感應せしむるものであります。

(三) 催眠術は顯在精神を無想にして潜在精神を活動せしむる法である

催眠術は顯在精神を無想にして潜在精神を活動せしむるものである、凡そ人の精神には顯在精神と潜在精神との二つがある、吾々が今現に意識しない精神がある、其れを潜在精神と云ふ即ち深き催眠状態に在る者が種々の動作をするは潜在精神の働きによるのであります、例へば催眠せる令嬢が、唱歌を唄ひ月琴を弾いた、然るに其れを覺醒すれば其令嬢は催眠中の事を少しも知らずに居る、二度び催眠せしむれば前の催眠中に唱歌を唄ひ月琴を弾きしことを能く記憶して居る、之れは丁度吾々が平常の状態即ち顯在精神に於て、昨日の出来事、若くは去年の出来事を知つて居ると同様である、詰り覺醒時は覺醒時で顯在精神

令嬢催眠中に  
に居る  
とを知らず  
に居る

催眠術とは何ぞや

女催眠術

神がズウツトと連絡して居り、催眠時は催眠時で潜在精神がズウツトと連絡して居る、由之催眠術は潜在精神を無想として潜在精神を活動せしめる法であります。併し催眠中のことを覺醒後によく記憶し居る程度の催眠状態もあり、之は催眠中潜在精神が全く無想となり切らず、未だ多少活動して居りし故である、學術研究上不思議の現象を起さしめるには深き催眠状態を要するも、單に病癢を治療するのみでは左まで深い催眠状態を必要としません。

奇妙なる潜在精神

以上述べたる所の二種の定義即ち催眠術は、感受性を高めて暗示を感應せしむる者であるとの定義と、催眠術は潜在精神を無想にして、潜在精神を活動せしむる者であるとの定義は、一個の催眠術を二方面より見たる説で、何れも眞理であると信じます、此の二説をよく含味すると催眠術の何物であるかが、よく解し得らるゝこと、存じます。

第二節 催眠術の品位

(一) 催眠術は各國大學校の教科目である

催眠術は純然たる學理の應用と神力とにより行はるゝのであります、哲學及び科學の應用と神の靈顯とによりて行はるゝのであります、恰も物理又は化學の實驗をするに、一々學理に基くを要する如く、催眠術の實驗も亦一々學理に基いてするのであります、即ち催眠術は立派な學術であります、それ故に催眠術は各國の大學校の教科目になつて居ります、歐米の大學校にては催眠術と云ふ講座が特に設けられて居る、日本の帝國大學校に於ても、現に心理學及び生理學の講座に於ては、催眠術の大意を講義して居ります、學理應用の上に神の靈顯宗教の意味が加はりて行はるゝのであります、之を以て見ても、催眠術は高尚なる者であることは明であります。

眠催眠術は神  
力と學術の  
應用とによ  
りて行はる

催眠術とは何ぞや

## (二) 催眠術は神術である

催眠術を一名神術と稱へます、何故に催眠術が神術であるか、催眠術を行ふ室には神を祭り、術者被術者共に神を祈り精神を清らかにして後に施術に着手致します、而して被術者が深い催眠状態になれば、被術者個人の精神は没却して哲學に云ふ宇宙精神と一致したる状態となる、神道に云ふ神人合一の精神状態となり、佛教に云ふ眞如法性の状態となる、基督教に云ふ神を見た神に近いと云ふ状態になる、之が理想の催眠状態である、催眠者中斯る理想の催眠状態に達せざる浅い催眠者は、個人の精神が働いて宇宙精神と合致したる状態ならぬのであります、卑境催眠せしむるは、被術者の精神を神と合一せしめんとし、又は神に近づかせしめんとするのであります、是れを以て此術を神術と稱するのであります、故に深い催眠状態となるには、人格の高い意思の健全な人

催眠術は人を神にする法である

でなければならぬ道理である、又其状態となれば、重病者が健康者となり、悲觀者が樂觀者となる位のことには容易であり、一室に居りて遠方のことも分る筈であります。

## 第三節 教育勅語の御主旨と催眠術の

### 目的

#### (一) 催眠術は不完全の人を完全の人に變

へる法である

催眠術は人の精神を左右する術であります、故に人の精神中惡しき點があれば、其れを善に代へることが出来ます、語を換へて云へば催眠術は不完全の人間を完全の人間に造り代へることが出来ます、例へば病身を健體に代へるのみでな

催眠術とは何ぞや

催眠術は教育勅語の御主意を奉體する者である

く忠君、愛國、至誠、博愛、慈悲、仁義、敬神、尊祖、孝行、勤儉、自強等の精神に乏しき者をして完全の人に直す事を得るのが、催眠術の大特色であります。

伏して惟るに教育勅語の御主旨は、大日本國民をして完全無缺の人たらしめんとするにあるかと拜察致します、果して然らば催眠術は教育勅語の御主旨を奉體するものであると確信致します、甚だ畏れ多い次第であります、教育勅語の御主旨に悖る者、即ち父母に孝を盡さざる者、兄弟朋友及び夫婦の間に於て、仲よくせざる者、學問又は仕事を嫌て怠慢に陥るもの等をして、催眠術を以て其癖を矯正したる實例多くあります、今其一二を摘んで申し上げます。

(二) 不孝娘を孝行娘となした實例

娘の品行矯正

或商家の娘父母の命を守らず、父母の金錢を盗み出して芝居を見たり、買ひ喰

ひをしたりする、其父母大に怒りて訓戒を與へたが少しも直らず、益々其惡癖募るばかりである、依て其母其娘を伴れて私を尋ね、其矯正方を依頼した、私は其娘を催眠せしめ矯正の暗示を與へて其惡癖を悉く消えさし、模範的の親孝行の娘とならしめました。

(三) 姉妹の不和を矯正した實例

姉妹の不和消へて親密に變つた

或る實業家の姉妹非常に仲が悪く、骨肉でありながら敵味方の如く反目する、其母心配して如何にかして親密になる様にと苦心し、種々手を盡したるも其効見えす、其母私の處へ來り其譯を晰して矯正を依頼した、私は其母に旨を含めて其姉妹を記憶力を増進する様に催眠術を受けるのであると口實を設けて、姉妹を伴れて私の所へ來らしめ、私は其姉妹を催眠せしめ、今後は仲がよくなるやう暗示したれば、姉妹は從來とは打て變りて、親密となりて圓滿な幸福な家庭催眠術とは何ぞや



庭となりました。

四 不和の夫婦を仲よくした實例

夫婦和合の妙法

或る金持の家庭に柔順ならざる妻と、妻を愛撫せざる夫とあり、口論口舌絶へずして、少しも夫婦らしくない、其れでも子供はよく生るゝ、其妻私の處へ來り、涙を流して事情を語りて依頼した、依て其の妻を檢診するにヒステリーに罹りて嫉妬強くなつて居る、故にヒステリーと共に其癖を矯正し夫の心をして代らしむる様に、常に心掛くる様暗示したれば、其妻は從來の悲觀消えて樂觀となり、動作一變したれば夫は妻の慰安と貞淑さに感化され、妻を愛撫する人となり、圓滿なる幸福の家庭となりました。

五 劣等の女學生を優等生となした實例

不愛嬌者を愛嬌者に變へた

或る名士の令嬢髪を撫せたり、御化粧のみをして居るが愛嬌がない、顔が何となく淋しい、其れで學問が嫌いで學校の成績は何れも皆劣等である、其母如何にかして學問を覚えさし度しとて、家庭教師を置きて頻りに勉強を促すも、勉強する風をして其實遊んでのみ居る、其令嬢母親に伴れられて私の處に來り治療を受け、愛嬌のあるニコニコ顔となり、非常の勉強家となり優等にて學校を卒業をし朋友を驚かしました。

六 本夫の品行を矯正した實例

催眠にては本夫は妻に遊び場所を隠すことは出来ぬ

深夜某大家の奥さんが、私を訪ねて「御恥しいことですが主人(亭主)は近頃何處へ行きて遊ぶか、夜更けて歸ることが多いから、今主人は何處に何をして居るかを千里眼を以て見て下さい」と仍て余は一名の被術者を深い催眠状態になり、更に神に人格を變換して、其主人の居る場所を見て話す」と暗示したれば、催眠術とは何ぞや

催眠者曰く「主人は〇〇〇球突場に居る、鼠色の洋服で、今球を突いて居る、相手の紳士は羽織袴で三十二歳の好男子である」奥さん曰く「傍に女は居りませんか見て下さい」と、仍て余は其旨の暗示を與へたれば、催眠者云はく「女が一人居る、ゲームの計算をして居る」と、後日其奥さんが曰ふに「千里眼は實によく適中しましたよ、妾はお宅から歸りに、直に車を飛ばして〇〇〇球突場へ行き、様子を見たら、千里眼者の云ふた通りでありました其事を主人に申し今後何れに御遊びになつても妾は知ります」と申したら主人は大に感心し其後は夜早く歸る様になりました」と語りり。

其他千里眼で紛失物の所住、逃亡人の居る家、病人の全快日數、未來の配遇者等を見て不思議に當つた例が澤山にある、殊に私が中央新聞社の依頼によりて、溺死者の所在を見て當てたることは人の能く知る所であります。

未來の配遇者  
者を當てた

### (七) 意氣消沈の娘を元氣旺盛の娘となし

#### た實例

某名士の令嬢内氣にして、知らぬ人の前に出て應接することは、恥しがりて出來ぬ、其母強て來客の前に侍らしたれば顔色赤くなり、手先振へ、禮義も述べられず、大失體をした、其父私を尋ねて曰く「人には元氣が必要である、昔から大事を成し遂げた人は、皆元氣が旺盛であつたからである、如何に學問があり智識があつても、元氣が無くては活用が出來ぬ、自己の意見を強硬に主張し、大事を成し遂げんとするには、是非元氣が必要である、學問より智識より元氣が必要だ、金力あり地位あつても元氣が無ければ駄目だ、元氣が旺盛であれば愉快で快活で、健康で幸福である、元氣の無い婦女の居る家は陰氣で不快だ、元氣の愛嬌ある婦女の居る家は金がなくても、何にが無くても陽氣で愉快だ、

元氣を旺盛  
ならしむる  
妙法

催眠術とは何ぞや

遠隔療法で娘の癖を癒した

不完全の人を完全の人に變へる法

夫れ故私 は娘の内氣を非常に氣にして居り如何にかして癒して元氣にしたいが、娘を御宅に伴れて來ることが出來ぬ、人の前に出ることが如何にしても嫌やがつて出來ぬから娘は宅に居りて受けらるゝ遠隔療法をして下さい」と依て私は相當の準備を晰して遠隔療法を行ひたれば、其後、父母の禮狀にこれでは元氣過ぎて困ると思ふ程の元氣娘となりました云々と見へた。

其他祖先を尊敬する念の乏しき者をして、祖先崇拜家に代らしめたることがある、朋友を欺き迷惑をかけるのを何とも思はぬ癖を、矯正したことがある、不慈善家をして、慈善家に代らしめたることがある、尙愛國心のなき者、敬神心の無き者、共同心の無き者、忠義心の無き者、徳義心の無き者、至誠心の無き者、仁義心の無き者、金錢の浪費者、怠慢者、克己心のなき者等の癖を矯め、立派の人と代らしめたる實例富士の山より高い程あります、斯の如く催眠術の目的は不完全の人を完全の人に直すのであります、畏れ多くも教育勸語の御主

眞の催眠術は偽の催眠術と同視してはならぬ

旨は、日本國民をして完全の國民となさんとするにあると拜察致します、催眠術の目的も又之れに外ありません、依て催眠術の目的は、教育勸語の御主旨を奉體するものであります。

### (八) 小説や活動寫眞の催眠術は作り事である

小説や活動寫眞を見て、彼は皆事實であると思ふは愚である、然るを小説や活動寫眞の催眠術を見て、催眠術はあゝ云ふものであると誤信するものがある、又催眠術が我國人に初めて知らるゝに至りしは、小説又は活動寫眞等に依てである、其催眠術が何れも濫用したことや、又は手品師が催眠術に非らざるものを催眠術であると詐りて、不思議の現象を見せたことがある、其れを見聞して催眠術を學んだことのない人は、直に誤信して催眠術は斯様な者であると思ふ

催眠術とは何ぞや

催眠術の眞  
價誤解を原  
因

人がある、又た實際催眠術をやる人の中に、學識もなく恒産もなくして、無責任の事をして、人の信用を無くした人もある、之等が原因になつて、世人中催眠術の眞價を誤解し催眠術は詰らぬ者の様に思ふ人がある故に催眠術を研究し又は受術せんとするときは、術者の選擇を誤りてはなりません、若し其選擇を誤ると、折角研究し受術するも、何等の得る所なくして終ることがあります、斯る場合に何等の得る所なくして終るも、其れは催眠術其者の罪に非ずして術者被術者の罪であります。

(九) 催眠術を早く研究せざりしを後悔

せる伯爵夫人の告白

催眠術研究に志すことの遅かりしを後悔した某伯爵夫人の述懐を一つ擧げませう。「妾は世人に彼女は催眠術をやる、と人に云はるゝを何んそなく恥しい様

催眠術で弱  
身健體に貧  
者富者に代  
る

な氣がした、故に催眠術を習ふて見度いと思ふたのは久しい以前であつたが、終に習はずに今日まで経過した、幼友人の〇〇子さんが先年非常に瘦せ衰へ、血色が悪く常に煩悶して仕事もせず、ぶらぶらして居つたが、近來非常に肥満して健康となり、大に活動せるを見て、〇〇子さんは何うして健全になつたかを尋ねたら、催眠術を研究し自己催眠を實行した結果である、と聽き妾は大に羨ましくなつた、又某紳士の夫人曰く妾の知人〇〇子さんは、五六年前までは、亭主の月給が少くないのに、お小供澤山と来て居る故、生活困難で目も當てられぬ風情であつた、然るに此頃は宏莊なる邸宅を新築し、書生や女中を數名置き、淑女の生活をなし、世人より奥さん奥さんと神の如く尊敬され居る、不思議に思ひ聞けば、〇〇子さんは御自分の娘に、人に晰せぬ嫌な病氣があつたのを、自分の手で人知れず癒し度きまゝ、竊に催眠術を研究し、御娘さんの病氣が全快した御禮に、他人の病氣をも癒してやらんとて慈善的に催眠術應用精神療法をな

催眠術とは何ぞや

したるに、謝金が澤山で断り切れず、其謝金で家屋を新築し、立派の暮しをせらるゝのであると聞き、妾は○子さんの様に、先覺の明なかりしことを後悔し、遅滞ながら先生に就きて催眠術を研究し、人に断せぬ煩悶を忘れて心を清くしたいと存じ、今御尋ねした次第であります云々。

(十) 催眠治療を早く受けなかりしを後悔せる男爵令嬢の告白

後悔せる男爵令嬢の告白

催眠術の治療を受くることの遅かりしを後悔した、某男爵令嬢の断を左に擧げましよう。

「妾は元來神經質で、心配せでもよい事を心配し、今迄長く苦しむだ、今迄の心配が漸く忘れたかと思ふと又他の心配が出で、何日でも心配が絶えたことはない、又肉體中何處にか悪い處が絶えたことはない、頭の工合が悪い、肩が張

自力では心配を除去する事は出来ぬ

催眠術で多年の煩悶消へて清き幸福の人となつた

る、少しの仕事で疲れる、少し食ひ過ぎると胃の工合が悪い、其れは御断しにならぬ、病氣の問屋の様な肉體でありました、其時代は催眠術をやる人は、山師とのみ思つて居り、催眠治療を受けて見たらと人に勧められると、嫌な恐ろしい様な感じがした、然るに催眠術は各國の大學校の教科目であつて、高尚な有益な者であるとの事を福來文學博士の著書によりて知り、今更ながら自分の愚かなるを悔い、信用すべき催眠術家を都新聞社に問ひ合はしたら、古屋先生がよいと教へられ、先生に治療を願つたら、全く別人の様に健康になつた、今では何事も安心して心配は少しもない、胸中是一片の曇りなき明月の様に清い、此心の清ひ私は眞に幸福であります、又肉體は非常に健康となり、愉快に活發で、如何に寒いときに薄着で居ても風を一つ引かぬ、幾ら仕事をしてても疲勞を知らぬ、今一度心配をして見たい、と思ふても心配が出て來ない、疲勞する程仕事をして見たい、と思ふて如何に詰めて仕事をしてても、少しも疲勞を知らぬ

様になつた、其も其筈です、催眠術によれば綿が石の様に重く感じ、鹽が砂糖の様に甘く感ずるので、悲觀が樂觀に病身が健體になる位のこと、何でもない筈であります。』

催眠術は人を救ひ世を益する學術である

以上に述べた様な實例は澤山あるが、實例の列擧は之にて留めます、此實例に依て催眠術其者が悪い點は寸毫も見當らない、又之を悪用せんとしても、決して悪用の出来るものでありません、悪用したと云ふのは、作り事の小説である、却て催眠術は悪人を善人に、病人を健康にする法で、高尚な有益な學術であります、故に斯學研究者は品性を高め精神を高潔にし、斯學に依りて神佛の靈顯を認め、自己の心身を鍛錬し健康とし、進んでは人を救ひ世を益せんことを希望する次第であります。

### 第四節 催眠術と催眠術類似の諸術

#### との關係

- (一) 感應術、靜座術、呼吸術、氣合術、即急術、心靈術、心理療法、哲理療法、靈子術療法と暗示術療法は催眠術の一小部分である

催眠術は如何なるものなるか、は以上お話しした所に依てお分りになつた事と存じます、世の中には催眠術に似寄りの術が澤山御座います、例へば感應術であるとか、靜座法であるとか、呼吸術であるとか、或は心理療法、哲理療法、即急術、心靈術、靈子術療法、暗示術療法、氣合術、其他色々な名を附てやつて居るが、其れは催眠術とは異なる者であるか否かは、催眠術の定義に當て陥るか否

催眠術とは何ぞや

かに依て區別されます、催眠術は感受性を高めて暗示を感應せしむる方法である、催眠術は顕任精神を無想とし潜在精神を活動せしむる法である、此定義に依て考ふれば、之等の諸術は皆催眠術の一小部分を行ふ者と見る事を得ます、算術に例ふれば催眠術は代數幾何である、氣合術、靜座法、哲理療法、心理療法、靈子術、暗示術等は加減乗除である、故に催眠術が行へば之等の諸法術は皆容易に行へる、代數幾何の出来る者で加減乗除の出来るもの無きに異らぬ、加減乗除は出来ても代數幾何は出来ぬ者がある如く、氣合術、感應術、靜座法、呼吸術、心理療法、哲理療法、靈子術、暗示術等は如何程自在に巧妙に出来ても、催眠術は更に出来ない者がある、之に依て是を見るに、催眠術に比して其れ等の諸術は價值少なくて催眠術の一小部分を行ひ居るものであることを知るべきである、然るに其れ等の諸術を行ふ者が、此法は催眠術以上の妙法であると法螺を吹く、何故に其れ等の人々は催眠術の一小部分にしか當らぬ

催眠術の行へる人には如何なる精神治療も行へる

獨り催眠術は諸博士が確認する

法を行ひて居るかは、催眠術は六ヶ敷くして行ひ難いからである、催眠術は患者を催眠状態にせなければならぬ、患者を催眠状態にすることは、容易に行はれるものでない、故に容易に行はるゝ他の法術を探るのである、其れに又一つの理由がある、催眠術ではない他の法だと云へば、實質は劣つて居ても、愚者を欺き易い、此二點より催眠術ではない、何々術であると云ふのである、其證據には催眠術の行へる者は何れの術でも自在に行ひ得るが、催眠術以外の法のみをやつて居る者に催眠術をやつてくれと云ふてもやれぬ、を以て其真相を看破すべきであります、殊に催眠術は各國の大學校に於て講義をして居る、總て大學校の諸博士は皆其功驗の顯著なるを確認す、然るに其他の諸法は學者の認めぬ法である以て、其如何を卜知すべきである。

(二) 禁厭術は催眠術の一小部分である

催眠術とは何ぞや

禁歴により  
歯痛の止ま  
る理由

禁歴術も亦廣義の催眠術の一小部分である、何となれば禁歴術は暗示を感應せしむる法である、歯痛患者に向つて私が今其痛みを止めて上げます、と云ふてケ、ンゲンコーリテイと云ひながら、指にて痛む所へ歯痛退散と云ふ字を何回も書く真似をする、然うすると歯痛が止まる、之は術者の暗示作用即ち歯痛癒るとの暗示の感應と、患者の豫期作用即ち斯くして貰へば歯痛は止まると確く信する、然れば其信じた通りに、心身相関の理によりて肉體は變化し痛みは止まるのであります、故に禁歴術も亦廣義の催眠術の一小部分であると云へる、其他類似の精神療法は悉く催眠術の一小部分を行ふ者と見ることを得ます、催眠術の一小部分を行ふに過ぎざる諸法で、確に重病を癒し得た實例が澤山にある、其諸法を數多集合して成立せる催眠術の効果の偉大や、推して知るべきである、催眠治療は精神治療法中最も行ひ難くして効果の多き者であることを深く記憶して頂きたいのであります。

催眠状態に  
就ての四大  
説

## 第二章 催眠状態とは何ぞや

### 第一節 催眠状態の性質

#### (一) 催眠状態の研究は何故に必要であるや

催眠状態即ち催眠した有様はごう云ふ風であるか、の問題は催眠術を研究する上に最も必要の大問題である、催眠術研究上催眠せしむる方法は、最も重要である、然るに催眠した有様は如何なる状態であるかを知らなければ、如何なる状態を作りてよきか分らず、其れが分らなければ催眠せしむることは出来ぬ、之れ催眠術研究上此問題が最も必要なる以所であります。

催眠状態とは如何なるものであるかに就ては諸説があります、其中の主なるも

催眠状態とは何ぞや



のは左の四説であります。

- 一、哲學上より見たる宇宙精神説
  - 二、宗教上より見たる神人合一説
  - 三、心理學上より見たる顯在精神無想説
  - 四、生理學上より見たる腦小血及び呼吸平靜説
- 以上四個の説は一個の催眠状態を四面より觀察したる説にして、只其見方を異にする丈にて何れも皆眞理なりと信じます。

(二) 催眠者の精神は宇宙精神と同體

なりとの説

催眠状態を哲學上より觀たる宇宙精神説は、催眠術に掛つた人の精神は、個人  
の精神は全く無想となつて、宇宙精神と合致した状態であります。

(三) 催眠者の精神は神と合一せる状態なりとの説

催眠状態を宗教上より見たる神人合一説は、催眠状態にある人の精神は、個人  
の精神は無想となり、慾を離れた清らかな精神である、其清らかな精神は神に  
近いた精神である又神と同體となつた精神である。又佛教に云ふ眞如法性の状  
態である。

(四) 催眠者の顯在精神は無想なりとの説

催眠状態を心理學上より見たる顯在精神無想説は、催眠状態にある人の精神は、  
顯在精神が無想になつて、潜在精神が活動する状態でありませう。催眠状態にあ  
る人の精神は、單に無念無想のみ思ふ人がある、其無念無想と云ふのは、顯  
催眠状態とは何ぞや

在精神を云ふのである、深い催眠状態となれば顕在精神が無想となり、潜在精神が自發的に或は暗示によりて盛に活動を致します、催眠中に遠隔地の有様を見、箱中の文字を読むことが出来るのは、催眠中は潜在精神が盛に活動するからであります。之れ故に人格の低き者強迫強念の強き者は深催眠状態となれば所以である。

(五) 催眠者の肉體は腦小血及び呼吸

平靜の状態にありとの説

生理學上より催眠状態にある者を見ると頭腦の血液は、身體の下部に循環して、頭腦の血液は少なくなつて居り、呼吸は靜に平になつて居る状態であります、秤床と云ふ秤り仕掛の「ベッド」の上に、人を平臥せしめて、水平の位置に保たして置き、而して其人を催眠せしめると、催眠が進むに従つて、次第に頭の方

秤床によれば催眠者の腦の血の少なきことが證明される

呼吸波計によれば催眠者の呼吸の平靜なることが分る

が上つて足の方が下る、それは頭の血液が足の方へ下つた爲に、平衡の状態を失ふたのであります、然して催眠者の呼吸を呼吸波計と云ふ器械を以て計れば、呼吸が靜かに平になつて居る、之によりて催眠者の腦の血液は少なくなつて、呼吸は靜に平になつて居る状態であります。以上の四説は何れも専門の學理上から觀察した説でありまして、何れも皆正當の説であると信じます、此四説をよく含味すると、催眠状態の性質はよく解せらるゝことゝ存じます。

第二節 術者被術者意志の聯合

(一) 意志の聯合とは何ぞや

催眠術を行ふには術者の意志と被術者の意志との聯合即ち原語「ラボー」が必要である、催眠術は常に術者と被術者との間には意志の聯合が暗黙に行はれ居る、催眠状態とは何ぞや

術者の低聲  
よく催眠者  
に感應し他  
人の大聲は  
少しも感應  
せざるは何  
故なるや

女催眠術

此意志の聯合が附き居らざれば、暗示は更に感應しない、被術者が深い催眠状態にあるとき、術者が低い蚊の鳴く様な聲で「手が舉がる」と暗示すると被術者の手が「意志聯合の附き居らざる人が傍に居りて「手を舉げる」と大聲を發しても知らぬ顔をして居る、意志の聯合を附けるには、術者は必ず被術者を催眠せしめると云ふ意志を以て施術し、被術者は術者に催眠せしめられるのであると云ふ意志を以て術を受ける、そこで始めて術者被術者の間に意志の聯合が附くのである、時には被術者は術者に催眠せしめらるゝとの意思なきに術者の意思のみで、終に被術者をして其意思とならしめ、意思聯合を生ずることもある、極く稀有のことであるが、被術者が催眠中術者の支配を受けぬとの考を起し、催眠中突然術者と被術者との間に意志の聯合が切れることがある、さうすると些とも暗示が感應しない、故に治療することも覺醒することも出来な

いことがある、意志の聯合が附いて居れば、術者が「覺める」と一言暗示すれば目を覺ますが、意志の聯合が附き居らざれば大聲で「覺める」と暗示しても、手を以て身體を振り動しても少しも感應しません。

(二) 意思聯合を第三者に移す法

術者被術者の意志の聯合は術者が第三者に意思の聯合を移すことも出来る、又自分獨りの外何人にも、其被術者に對しては意思の聯合を附けることが出来る、くすることも意の儘である、術者が被術者に對して「傍らに居る何某の云ふことは能く聽へて其の云ふ通りになる、併しながら、其次の何某の云ふことは何を云つても聽へない」と暗示すれば、其次の何某の云ふことは少しも聽へず、何を云ふても少しも感應しない、併しこれは理想の催眠状態たる第三期の眠遊状態になつて居らざれば行はれません 第二期以下の淺い催眠状態では、術者以外の人

誰

奇妙なる意  
思聯合

蚊の鳴く様  
な聲によ  
く感じて落  
雷の様な大  
聲が更に感  
ぜざるは何  
故なるか

でも、催眠者に向つて暗示すれば、直に意思聯合が付き、暗示は感應致します、第三期の催眠状態にあるものに對しては、術者は何事でも意の儘に感應せしむることが出来る、暗示一つで何人にも意志の聯合を附けることを得、又は何人が如何様にしても意志の聯合を附けることを得ざる様にすることも自在に出来る、單に物質的の考へのみを以て見れば、同一人に對しては、蚊の鳴く様な低聲より、落雷の如き大聲の方が、よく感ずる筈であるのに、落雷の様な大聲が少しも感せず、蚊の鳴く様な低聲がよく明確に感ずるのは何故なるか、人體は精神作用によりて、生理作用までも常に支配されつゝあることを、之に依りて知るべきである。

### 第三節 催眠深淺の判定法

#### (一) 催眠程度の看破は最も必要なる所以

暗示の成功  
不成功は催  
眠程度の看  
破を誤らざ  
ると否とに  
ある

術者が被術者に對して催眠法を行ひたる時、催眠したか否か、催眠したとせば其催眠は淺いか深いかを見る法を催眠深淺の判定法と申します、被術者の目を閉ぢしめて催眠法をやりますと、被術者は身體を静止して居る、身體は静止して居ても顯在精神は何の位無想になつて居るか、即ち催眠したか否か、催眠して居るとしても、其程度は如何なる程度であるか、如何なる暗示が感應する程度であるか、を知ることが非常に肝要であります、催眠は淺くても其程度をよく看破して、其の程度に合ふ暗示をすれば、其催眠術は成功したもので、催眠は深くとも其程度の看破を誤り、程度に合はぬ暗示をすれば、其催眠術は失敗したのである。

例へば爰に淺い催眠者がある、顯在精神にて周圍の音響、術者の言語一々よく記憶し居る程度の淺い催眠者がある、然るに術者は深い催眠状態であると誤信し、「今横濱見物をする」と云ふ暗示を與へた、然るに催眠淺き故、少しも横濱

催眠状態とは何ぞや

催眠状態の  
三階級

見物をした様でない、すると被術者は人を馬鹿にして居る、横濱見物をするに云ふたが少しもそんな気がせない、よりに術者が病氣は癒ると暗示したが、到底癒るものではないと思ふ、其う思ふと思ふた通りに効果がなくなる、此例によつて見ても、催眠程度をよく看破し、其程度によく合ふ様に暗示すると否とは、斯術の成功不成功の分るゝ處であります、私は催眠程度を左の三段に分けるを宜便と存じます。

- 第一期 恍惚状態
- 第二期 止動状態
- 第三期 眠遊状態

(二) 恍惚状態とは何んな有様であるや

第一期の恍惚状態、是れは極く浅い催眠状態である、此状態にある催眠者の顔

手足が重くなつて動かすのが嫌になつて居る催眠状態

面の筋肉は緊まりがなくなつて口を少し開き、呼吸が静に規則正しくなつて居る、手を持ち上げて舉げさせて置く、と其手が軽く舉がつて居る「其手は重くなつて下がる」と暗示すると、次第に其手は下がつて腰に着く、此程度では催眠者に周囲の物音術者の言語よく聴へて居り、其事を覺醒後迄よく記憶して居る、催眠者自身で自分の手足を強て動かそうとすれば動かすことも出来る、併し手足は重く又は軽くなつて動かすが嫌になつて居る、此状態で治療矯癖の効は充分にあります。

(三) 止動状態とは何んな有様であるや

第二期の止動状態になると第一期より少し進んだ状態で手を固く握らせ「其手は開かぬ」と暗示すれば開かぬ「舉げた手は下がらぬ」と暗示すれば下らぬ、「手が上に舉がる」と暗示すれば上に舉がる、「舉つた手が胸へ来て固く附く」

催眠状態とは何ぞや

手が堅く胸に附て離れぬ催眠状態

と暗示すれば其通り固く附いて、催眠者自身で離さうとしても離れぬ、他人が引張つても離れぬ、此止動状態になれば餘程不可思議な暗示が感應いたします、全身無感覺の暗示をすれば、全身無感覺となり、腕に針を刺し込んで少しも知らずに居る、此状態に在る者も外界の音響は明瞭或は不明瞭に耳に入り、覺醒後其事をよく覺え居り、又は朦朧と覺え居る、此程度に進めば、治療矯癖には非常に大効果があります。

(四) 眠遊状態とは何んを有様であるや

第三期の眠遊状態に近づくと、催眠者の手を術者の手にて心力を凝め引き擧ぐる真似をするを擧る、其場合に被術者は閉目して居り、術者は何とも口に言はず心力を籠めて催眠者の手を引く真似をする、其手が擧る、恰も線り人形の手に附いて居る糸を引くと、其手が擧がると同様の状態を呈する、それから完

催眠者の人格石地藏に變る

無感覺の暗示を與へずして身體無感覺となる催眠状態

全の第三期になれば、人格變換が行はれます。術者が「お前は石地藏である」と暗示すれば、催眠者の人格が變換して石地藏になる、實際の石地藏は無機物であるから、固より感覺の有らう筈はありませぬ、催眠術に依て人格を石地藏に變換した者も矢張り感覺がない、完全に石地藏に變換した者は、無感覺の暗示を與へずして鼻口に紙緋りを差入れても知らずに居る、詐りに石地藏の風を粧つて居るのであれば、鼻口に紙緋りを差入ると直に驚きて肉體を動かします、第二期の状態にても感覺を無感覺とすることを得るが、第二期には無感覺の暗示を與へて、初めて無感覺となる、其が第三期に於ては無機物に人格が變換すれば、當然無感覺となる、人格變換の行はるゝ催眠程度は最も深い催眠状態で、催眠中のことを覺醒後に少しも知らない、稀には第三期の眠遊状態迄深く催眠が進まずして、催眠中の事を覺醒後に知らないことがあるが、それは多くは睡眠が多少混合して居る場合に、さうな

るのであります。

### 第四節 催眠中記憶の有無

#### (一) 催眠中の事をよく知つて居る催眠者

眠者と少しも知らずに居る催眠者とある道理

催眠中周囲の音や術者の言語暗示を一より十まで能く記憶して居る催眠者と、又催眠中の事を少しも知らぬ催眠者がある、其れは何う云ふ譯であるか、催眠中のことを何も知らずに居る催眠者は、顯在精神が全く無想になつて、潜在精神のみが活動して居る状態となつたからである、之に反して幾分顯在精神が活動して居る浅い催眠状態に於ては、催眠中のことをよく知つて居る、催眠中

催眠中のことを能く知つて居る催眠状態

催眠中のことを一部記憶したり全部記憶したりすることが出来る

の事を一々能く覚えて居る催眠状態のあることをよく記憶せられたい、睡眠が少しも混入せざる純粹の催眠で、催眠中の事を少しも知らない様に深く催眠する人は、心の清い人格の高い人で、天性よい感受性を持つた人であり、その云ふ人は少なう御座います、併し大概の人が始は催眠が浅くても數回施術を受ける、と次第に深く催眠が進みて、終には催眠中のことを全く知らない様に深くなる、又深い催眠状態となれば、催眠者に催眠中の事を全部又は一部を記憶したり、忘れさしたりすることは、暗示の儘である、浅い催眠状態では記憶消失の暗示を感應せしむることは出来ぬ、然して周囲の音響、術者の言語をよく覚えて居る浅い催眠状態でも種々不思議の現象を起すことを得、且つ治療癡癲の効果も充分にあります。

#### (二) 催眠した心持と睡眠した心持とは

催眠状態とは何ぞや

異なる點

催眠するの  
を睡眠する  
のであると  
思ふは誤り

催眠すると睡眠したと同様に目を閉ち、肉體を静止して居り、催眠中の事は何にも分らなくなる、そうならば催眠状態で、そうならなければ催眠状態でないと思ふ人がある、其れは催眠術を研究したことのなき人の憶測である、催眠すると睡眠したと同様の心持となる状態もあるが、其状態となると否とによりて催眠と否との區別點にはならぬ、催眠中のことが覺醒の後迄もよく、分つて居る催眠状態がある、然るに世人中催眠すれば、睡眠したときの様になるとのみ妄信して居るものがある、術者が其誤りであることを説明してもなかく了解せぬ者がある、其誤解の爲に効果のある施術を受けても、効果を無くして仕舞ふ人がある、之は心身相關の理によりて當然である、斯くも無効となりし罪は被術者自身にある事を悟らず、其罪を術者に歸せんとするものがある、早く斯

邪心を抱き  
居りては催  
眠状態にな  
れぬ

様な誤解者のない様にしたものである、催眠術さへ行ふて貫へば、自分は邪心を抱き居りても慾心を抱き居りても無念無想になれるものである、と誤信して居るものがある、催眠状態となり自己の病癢を癒さうと思は、心を清くし邪念を去らしむるを要す、然ればよく感應して、病癢は全く除かれるのである、斯く被術者をして信せしむると否とは斯術の成功不成功の分るゝ所であります。

第五節 深催眠状態と覺醒状態との區別

(一) 深い催眠状態にある人は眼を開きて

歩行し嘯をする

非常に深い催眠状態になれば覺醒者と同じ様な状態を現します、即ち最も深い催眠状態とは何ぞや



催眠状態になれば眼を開いて歩行し口を利く、或は仕事をしたり飯を喰つたりする、其状態が外觀上は殆んど覺醒者と異りません、何事に依らず極端と極端とは一致いたします。

地球上を東へ東へへ行けば遂には元の處へ歸る、催眠術も矢張りさう云ふ風に非常に深い深い催眠状態は、覺醒状態と同じ状態を現します、極端に熱い物と極端に冷い物とが同一の作用をする、非常に熱い物を人の肉體に觸れれば火傷を起す、又非常に冷い物を人の肉體に觸れれば矢張り凍傷を起す、其の傷は兩者同様である、催眠術の現象もやはり其理に一致して、最も深い催眠状態と覺醒状態は、同一の外観を呈します、是によつて見ましても、催眠したる人の状態は、何時にても眼を閉ぢて靜止し居り、何にも分らなくなつて居るものだこのみ思ふは素人考へで、間違ひであることが御分りになりましたことゝ存じます。

深い催眠状態に在る者は覺醒者と同様の外形を呈する

催眠せずして閉目靜止せる者と催眠して周圍の音響が聽へて居る者とは何によるかに區別する

### 第六節 淺催眠状態と覺醒状態との區別

#### (一) 催眠したとか催眠せないとかの批

評は素人はなすべからざる所以

淺い催眠状態と覺醒状態とは何で區別をするか、深い催眠状態にある者と、覺醒状態にある者とは容易に區別することが出来る、深い催眠状態にある人に「聾になつた」と暗示をして、耳元で太鼓を叩いても知らずに居るから確に分る、然れども非常に淺い催眠状態と覺醒状態とは區別することが六ヶ敷い、淺い催眠状態に於ては周圍の音響術者の言語が日々よく分つて居る、其状態と催眠せずして只だ目を閉ぢ靜止し居る覺醒者とは何に依つて區別するか、理屈から云へば比較的顯在精神が覺醒時より無想に近づいて居る状態が催眠状態である、催眠状態とは何ぞや

然れども實際に當りて現在精神が覺醒時より比較的無想になつた淺き催眠状態と、覺醒状態とは如何にして區別するかは困難の問題であります、例へば動物と植物の區別に就ても、松と馬とを示して何れが植物で何れが動物であるか、と云へば能く分ります、けれども「アミーバ」とか「プロテスタ」とかを示して之は動物か植物かと云へば、動植物學者に非ざる素人には更に分らぬ、況んや無形の精神に於てをやである。

素人が催眠治療法を見て催眠せないと口走り病人を死に至らしめたことがある

催眠術を規則的に研究したることなくして、之は未だ催眠状態にならぬとか、催眠状態になつたとか云ふは、潜越にして間違が多い、其間違が單に議論の勝敗丈ならさまで氣にせずともよいが、其の間違の見解が原因となり、治療上全癒すべき重病者が死の轉歸を見ることがある。

素人は淺い催眠状態を見て催眠せなと思ひ、催眠せなから催眠治療の効はないと口外す、其口外を患者が耳にすると、患者は落膽して多くは不治の病人

施術を受けたいすれば癒る

となり、又は死することがある、之に依つて催眠術を研究したことのなき人は、彼は催眠したとか催眠しないとかの批評は輕忽になすべからざることである、只單に施術をして貰へば夫れで癒るとのみ信じて居るのがよい、そう信すれば其信じた通りに必ず癒ります。

### 第七節 催眠と睡眠との判定法

#### (一) 催眠は暗示に感應するが睡眠は暗示に感應しない道理

普通の催眠者は丁度睡眠者の様に眼を閉ちて靜止し居り、外見上睡眠も催眠も殆んど變りはありませんが、其性質は非常に違つて居る、催眠とは眼を催すと書きますが、此眠りと云ふ字は理論上當嵌まらない、何となれば、催眠は顯在

催眠状態とは何ぞや

睡眠と催眠とは性質が大に違ふ

精神が無想になつて、潜在精神が盛に活動する状態である、決して眠つて居るのではない、顕在精神が鎮静して居るのである、それであるから暗示をすれば其暗示が感應して潜在精神が活動する、術者の低い聲で止動状態にある催眠者に向つて「手が挙がる」と暗示すれば催眠者の手が挙る、若くは術者が精神だけで「手が挙る」と強く観念すれば、矢張り眠遊状態に在る催眠者の手は挙がる、催眠状態にあれば然う云ふ風に暗示が感應するけれども、其れが睡眠状態であれば暗示が感應しません、術者が何を暗示しても知らぬ顔をして居る、若し暗示の語が聞えれば、睡眠者は最早覺醒したのである、之に依て睡眠と催眠とは暗示が感應するか否かに依て區別する事が出来ます。

(二) 催眠には疲勞を忌むも睡眠には

疲勞を忌まぬ

睡眠を不足さして催眠術を受ける催眠と純粹の催眠を得られない

被術者の身體が疲れて居れば純粹の催眠状態を得られませぬ、然るに睡眠は身體が疲れて居ればよく出来る、睡眠と催眠とは其點が違ふ、然るに素人中には之を誤解して、僕は催眠術に能く掛るやうに、前の晩終夜書物を讀んで身體を疲らせて来たと云ふ人がある、そう云ふ人の眠るのは催眠でなくて睡眠である、純粹の催眠状態を得るには、少しも疲勞をして居ない時がよい、それですから私の處で非常に微妙な實驗をするときは、豫め被術者をして其前一日位は何等の仕事をさせずに、睡眠させて腦をよく休ませ、精神を爽快にして置いて、而して後に實驗に着手します、然うすると睡眠の混入せぬ純粹の催眠が得られ、極めて微妙なる現象を呈します、即ち睡眠と催眠との區別點は、暗示に感應するや否やに依て定まり、それから睡眠には疲勞を必要條件とするも、催眠には却て疲勞を忌みます、此二點によりて區別されます。

催眠状態とは何ぞや

催眠と睡眠とを區別する二要点

### 第八節 催眠術を數多く受くる利害

#### (一) 催眠術は數多く受けても何の害

##### もない道理

座禪の状態  
と催眠の或  
程度とは同  
一である

世人中催眠者の呈する不思議の現象を見て、其道理を解せずして種々誤りし憶説を傳ふる人がある、曰く度々催眠術を受くると身體が弱りはせぬか、曰く數多く催眠術を受くると、何處か身體に異常を呈しはせぬかとの疑問を起す人がある、此問題は催眠状態の性質が明かとなれば、直に解釋し得らる、催眠状態にある人の精神は神人合一の状態である、宇宙の精神と融合したる状態である、彼の座禪の定に入つた状態は、催眠状態中の或程度と一致して居る、座禪を修養法健康法として行る人がある、其座禪状態と催眠の或程度とは同一である、

避暑避寒の  
代に催眠術  
を受くるこ  
と西洋にて  
は流行する

之に依て是を觀るに、何回催眠術を受くても毫も害がなくて、利のみあることは明白である、西洋の文明國に於ては此道理をよく解せられ、健康者が無病法又は長壽法として催眠術を受くこと大いに流行し、避暑避寒をするより催眠術を年々二三回づつ受け置く方が輕便で効果が多いとて、其目的の爲に受術せらるゝ方非常に多いと云ふ。

催眠術は數  
多く受くる  
程心身健康  
となりて何  
等の害もな

依之催眠術は施術回数を受ければ受ける程利ありて何等の害なきことが御分りになつたことゝ存じます、併しながら凡そ何者と雖も、濫用して害のない者はない、火と水とは人間の生存上缺く可からざるものである、併し放火をしたり、堤防を破壊したりすると、其被害大なるが如く、催眠術も濫用してはならぬことは勿論である、相當に斯術を研究した人が、精密なる注意を拂つて學術上の實驗をする、或は治療矯癖をすることは、何回やつても有効無害である、此事は確く斷言して保證します、故にもし受術せんとするときは、術者

催眠状態とは何ぞや

の人格學識及び其經歷等を確め、信用ある高德の士に就て受術することは最も必要であります。

### (二) 催眠術は健康法長壽法として偉

大の効果がある所以

私の知人に年中病人の人がある、一年中大概の日身體中頭の工合が悪いとか、腹の工合が悪いとか常に肉體上の苦痛を感じ、加ふるに人に嗾せぬ煩悶が絶えずして鬱々として居る、そう云ふことが十年一日の如くであつた、爲に碌な仕事も出来ず悲觀のみして居た、其病人が催眠術を信じ、催眠治療を六回受けたら、其後は肉體の悪いことを少しも感じない、又何事も心配をせない精神の清らかな人となつた、爾後之を徳とし、益々健全の度を増さんとして、毎年數回宛は必ず缺かさず受術せらる、それ故に盛夏に避暑せず、嚴寒に避寒せずして、

催眠治療に  
より年中病人  
人強壯無比  
となる

著者は二十  
年間一日も  
休まず受術  
した

腹一つ痛みしことなく、風一つ引いたことがない、非常の健康となり老いて益々益盛んである、此分では百歳の長命は何でもない威馬利居れり。

又私は二十年來毎日一回は必ず他人の施術を受けるか、又は自己催眠をする、而して精神上の諸問題を研究して居る、催眠術を我身に行はぬ前は非常の大病人であつたが、我身に之を行ひ初めし後は健全體となり、常に普通人の五倍位の仕事をなして居る、それで疲勞とか倦怠とか云ふことを少しも知らぬ、私は此受術によりて心身は尙日々改善せられつゝある、以て將來は尙一層幸福の人となり得る事を感じて嬉しく思ふて居ります。

### 第九節 催眠感受性の鑑定法

#### (一) 催眠感受性とは何であるか

催眠感受性とは其字の如く催眠術を感じ受ける性質であります、其性質は人に

催眠状態とは何ぞや

催眠感受性は酒量の如く人によりて異なる

依て非常に違ひます、酒の感受性の高低を普通に酒量と云ふ、酒量は人によりて非常に相違がある、或る人は盃一杯の酒で酩酊する、或る人は五升飲まなければ酩酊せぬ、催眠術に感ずる性質も酒量の如く人々によつて大に異なる、或人は盃一杯位の催眠法を行ふと非常に深い催眠状態と成る、或人は其二百倍即ち四升に相當する催眠法を施しても少しも反應が現れない、斯様に催眠感受性には高低がある、被術者の感受性が催眠術を施す前に分つて居れば大變便利である、故に施術に着手する前に先きだち、其被術者の催眠感受性を見て、其感受性に相當する施術法を行へば必ず催眠する、其感受性の高低はさうして鑑定するか、次に之を申しませう。

(二) 催眠感受性を見分くる二大法

顔面を見て催眠感受性を知る法

一) 望診即ち被術者の面貌が肉附きよく血色がよくして、極めて圓滿にして無邪

氣であればよく感ずる、即ち催眠感受性が高い之に反して顔面が瘦せて、血色悪く顔が淋しくて神経質で疑ひ深く、怒り易いやうな顔をして居る人は、感じ悪い人であります。

(二) 問診即ち被術者に色々なことを訊ねて聴き、其れによりて催眠感受性の高低を鑑定するのであります、夜床に就て直ぐ眠れるかどうか、朝迄一ト眠りに熟睡するかどうか、床に就くと直ぐ眠れて朝まで熟睡の出来る人は感じ易い人、それに反する人は感じ悪い人である、それから嘗て何人かの施術を受けたことがあるかどうか、嘗て施術を受けたことがあるが、些ども感じなかつたと云ふ人は、今度の施術も普通困難である、又話しをして居る中に何事も悪く悪くと解釋をして、平氣で人を怨み世を誣る人がある、さう云ふ氣味のある人は、感受性の低い人であります。

(三) 忘我即ち實驗に依て忘我の程度を知り、忘我の程度の高い人程感受性の高い催眠状態は何ぞや

不安悲觀の人は催眠感受性が低い

自我の働かない人程催眠によく感ずる

人であり、それは被術者を立たせて置き、術者其前に直立し、身體が何れへ傾いても氣に止めずに置きなさい、肉體のあることを忘れて居なさい」と云ふて置き、術者が被術者の兩肩へ兩手を掛けて、被術者の身體を左右に動かし、被術者の身體は術者の動かす儘に動いて、被術者自分で自分の身體を支配する精神の少ない人程感じ易い人である、それに反して自分の精神で自分の身體を支配する精神の強い人程感じ悪い人である、被術者自身の精神で自分の身體を支配して居るか否かは術者の手によく感應して其程度が判る、數名に就いて數回實驗して見ると、其工合が直に感得されます。

以上三種の方法に依て催眠感受性の高低を鑑定すると確に誤らずに其高低が解ります。

### 第三章 暗示感應法

#### 第一節 暗示の性質

##### (一) 暗示とは如何なるものぞや

暗示の定義

先づ暗示とはどう云ふものであるかをお話致します、暗示の定義に就ては色々ありますが、私の考では「術者の觀念が其儘被術者の觀念となつて、被術者の精神と肉體が其觀念の通りに成るを暗示と見ます」術者が被術者に向つて「催眠する」或は「手が舉がる」と言語にて云ふ、然ると被術者は其の言はれし通りに催眠したり、手を挙げたりする、之れ即ち催眠をする、手が舉がるこの暗示に感應したのである、暗示の方式は言語の外手眞似、念力、手紙、電話等何れにても觀念を通ずる方法であればよい、然れども言語暗示が一番簡便で効果が多い、故に普通には言語暗示を多く用ひます、故に言語暗示に就て説明致しますよう、言語暗示と談話と、命令と説諭とは一寸見ると同じ様でも、其性質暗示感應法

が大に違つて居ります。

(二) 言語暗示と嘸との違ひ

嘸は單に意思を表示する丈であるが暗示は被暗示者の心身を變へるものである

言語暗示は嘸に似て居るが嘸とは非常に性質が違つて居る、嘸は嘸す人の意志を相手方に知らせるだけであるが、暗示は術者の觀念を被術者の觀念として、其觀念の通りに被術者の精神と肉體とを換へるのであるから其兩者の性質は非常に違つて居ります。

(三) 言語暗示と命令との違ひ

言語暗示と命令とは又非常に違つて居る、命令は命令者が被命令者に向つて「手を動かしてはならぬ」と命令をすると、被命令者は手を動かさないうで居る、其れは命令に服従したのである、動かせば動かせるけれども、動かしてはならぬ、

命令は服従關係で暗示は感應關係である

と云ふから動かさずに居る、それは命令に服従したのである、然るに暗示は之れと異りて「手は動かぬ」と暗示すれば、實際手が動かない、動かそうとしても動かないのであります。

(四) 言語暗示と説諭との違ひ

酒を飲めば飲めるのを飲まずに居るのが説諭に服従したのであつても飲まうとしても飲めないのが暗示に感應したのである

言語暗示と説諭とも大に違ひます、説諭は「酒を飲んで害があるからお廢めなさい」と説諭す、然ると酒を飲むと害があるから、廢めよふと思ひ酒を廢めるのが説諭に服従したのである、暗示は其れとは違つて「酒は嫌ひになつた最う飲まぬ」と暗示すれば、實際酒が嫌ひになり飲めなく成る、さう云ふ區別があります、斯様に言語暗示は談話、命令、説諭とは性質が違つて居る、言語暗示をする場合には、談話をしたり、命令をしたり、説諭をしたりするやうにしてはならぬ、然らば言語暗示は如何にしたらばよいか、暗示の言語は下腹部よ



暗示の通り  
手が舉る

り心力を凝めて、莊嚴に簡明に發するのである、例へば被術者に手を舉げさせんとして暗示するのであれば、術者は姿勢を正し下腹部に力を入れ、心力を凝めて手は必らず舉がる、と強い確信を以て「手は舉がる」と口で云ふのである、然ると其云ふ通りに手は舉る。

(五) 五大暗示とは何ぞや

暗示の種類は非常に澤山あつて一々列舉し盡せぬ程あるが、其中の重なるものが五種あります。

- 一、精神暗示。
- 二、言語暗示。
- 三、動作暗示。
- 四、殘續暗示。

五、繼續暗示。

(一) 精神暗示とは精神だけで暗示をするのであります、人の病氣を癒す暗示をするには術者は姿勢を正し、精神力を籠めて「君の病氣は癒る」と強烈に觀念すると、術者の精神が被術者の精神に感應して、被術者の病氣は術者の觀念通りに癒ります。

(二) 言語暗示は言葉を以て「病氣は癒る」とか「手は舉がる」とか暗示をするのであります、言語暗示は色々な暗示の中で一番多く用ゐられる法で、又一番造作もなく行はれて効果が多い。

(三) 動作暗示は動作を以て暗示をするのであります、例へば被術者の手を舉げさせんとするのであれば、術者が手は舉ると手眞似をする、然ると被術者の手が舉る、或は病氣で手が曲りて伸びぬ患者の手を、伸ばさんとして、術者が其患者の手を執りて動かし、伸してやることも動作暗示であります。

暗示感應法

精神暗示法

言語暗示法

動作暗示法

(四) 殘續暗示は有名な奇妙の暗示で、催眠中に暗示したことが覺醒後に現はれます。催眠者に向つて「君が催眠より覺めて暫く経た後に私が咳拂ひをするとき君は合掌して神を祈る」覺めた後は催眠中のことは忘れて居る」と暗示をして覺醒させる、然うすると、被術者は催眠中に如何なる暗示をされたかを知らぬ、けれども覺醒後暫く経た時、術者が咳拂ひをするとき被術者は合掌して神を祈る、併し此暗示は催眠程度が第三期の眠遊状態に進みて居らなければ感應致しませぬ。

(五) 繼續暗示は一たび暗示して感應した状態を、永遠に繼續せしむる暗示で、治療矯癖の場合に使ふ暗示は皆之れであります、例へば「病氣が取れた」と暗示して、病氣の取れた状態を永遠に繼續せしめる類であります。

## 第二節 言語暗示上肝要の條件

### (一) 暗示感應上必要の六大條件

- 一、簡單明瞭なる事。
- 二、心力を籠むる事。
- 三、言語高低に就て注意する事。
- 四、被術者の精神と適合する事。
- 五、變則の暗示は取消す事。
- 六、言語を慎む事。

(一) 暗示の言語は簡單明瞭でなければならぬ、暗示の言語が複雑して明瞭を缺いて居ると感應が判然せない、即ち暗示の効が少ない、稀には全く無効に終ることもあります。

(二) 暗示の言語を發するときには、下復部に精神力を籠め、精神を統一して莊嚴の暗示感應法

暗示は心力を籠めるを要す

暗示の言語は如何なる場合に高く又低くすべきか

言語を以てするのである、心力を凝めず只軽く口の先で、言ふたのでは、よく感應しませぬ。

(三)暗示の言語を發するとき被術者が一人なれば大きい聲を發しても差支へないが、一室にて数名の被術者を一度に施術するときには、低い聲で暗示をし、甲の被術者に暗示することは、乙の被術者に聴へず、感應しない様にしなければならぬ、併し今覺醒せしめんとする際と、覺醒せしめたばかりのときは、大きい聲で暗示をするがよい、催眠の程度は浅い程大きい聲を以てし、催眠程度が深い程低い聲で暗示をするのが原則です、而して覺醒したら又大きい聲を以てするのである、聲は幾ら大きくても心力が籠つて居なければ、其暗示は能く感應致しませぬ、其れに反して假令蚊の啼くやうな小さい聲でも、心力が籠つて居れば其暗示は能く感應致します、故に心力を凝める事が最も肝要であります。

(四)術者の暗示が若し被術者の精神に適合しなければ、暗示は効を奏しません、

暗示は被術者の精神に適合するを要する以所

取消すべき變則の暗示とは何んなもの

例へば「手が動かぬ」と暗示をした場合に、被術者の精神で成る程手は動かぬと思ふ、故に其思ふ通りに動かなくなるのである然るに「手は動かぬ」と暗示をした場合に、被術者が心中にて「ナニ動かぬ筈はない自由自在に動く」と思ふ、斯様に被術者の精神と術者の暗示とが正反對では、其暗示は効が少なく、時には全く無効となることもあります、故に術者は、被術者が暗示の通りに思ひたり、暗示の通りになる状態であることを看破して、而して後に暗示をする必要があります、催眠術の成功不成功は實に此精神の看破を誤ると否とにあります。

(五)變則の暗示をなしたときは取消さなければならぬ、變則の暗示とは暗示を感應せしめ、其儘置くと身體の爲に良くない暗示を云ひます、例へば實驗として普通の人を吃音の人格に換へることがある、さうすると能辨の被術者が全く吃音者となる、其暗示を取消すことを忘れて其儘置くと、其被術者は覺醒後幾分

吃音の状態を繼承することが極く稀にはあります、依て若し此種の暗示をしたら、元の健全者即ち能辨者に復する暗示をする必要がある、故に實驗上色々不可思議な暗示をしたときは、其暗示を取消することを忘れてはなりません。

(六) 催眠者に對しては術者の言語は悉く暗示となるから、術者が被術者に對しては一言も苟くしてはなりません、一例を申しますれば、嘗て私の所へ私の知人の令嬢が治療を受けに來た、治療が終つた後に今別れて歸らんとするとき「暇の時には遊びに御出でなさい」と言つた、催眠より覺醒したばかりのときであるから、それが暗示となつて感應し、其令嬢は病氣は癒つて快活に勇壯となつたが、歸宅後どうも精神研究會へ遊びに往かなければならぬ觀念が起きて、本日も參つた次第で甚だ困るから、是非彼の暗示を取消して貰ひたい、と云ひました、依て其前の言語を取り消す暗示をして、其の觀念の起きの様にしてやつたことがあります、斯様に術者の一舉一動は非常に能く感應することが稀にあり

術者の言語は悉く暗示となるから術者は言語を慎むを要す

ますから、術者は人格を高潔にし、一舉一動を苟もせず、悪い感化を與へることのない様にせなければなりません。

### 第四章 催眠術を行ふ豫備行爲

#### 第一節 術者に必要の精神修養

##### (一) 施術の成功不成功は有形の方式

の巧拙に非ずして無形の精神修養如何にある所以

術者は施術に先きだちて精神の統一を圖らなければなりません、即ち被術者を催眠せしめ、或ひは被術者の病氣を癒さんとのことにのみ心が集まるやうに修養をしなければなりません、其修養法として、齋戒沐浴して深呼吸をなし神を

催眠術を行ふ豫備行爲

深呼吸と祈

術者が行ふべき精神統一の修養法

祈り、神の力を藉り人世を救はんとの觀念を強むるを要す、其修養法として自己催眠をなすは最も好い、若し術者が不安の精神を持つて施術すれば、其不安の精神が被術者の精神に感應して、被術者が不安の精神となり、不結果に終るが常である、術者の心で「俺れが今やつても催眠せしむることは六ヶ敷い、病氣を癒すことは出来ぬ」と思ふ、併し試みにやつて見やうと云ふやうな、薄弱な精神、懷疑の精神で施術すると、多くは不結果に終る、其場合に必ず成功する、成功せしめずんば手を引かぬ、と大確信大決心を以て着手し、施術すれば其信念の通りに術者の施術が巧妙となり、必ず其大確信大決心の通りに上結果を得られます、故に術者は此大確信大決心を得る爲に修養することが肝要である、施術上有形の形式のみを覺ゆれば、其れで成功をするとのみ思ふものもあるも、其れは大なる誤である、施術に最も必要なるは無形上の修養である、佛教の僧侶が毎朝御勤めと云ふて讀經する如く、術者も毎朝深呼吸をなし神に祈禱

百般の事業の成功不成功の別る處

をするを要す、此修養が必要で、有形上の形式の如きは末である、術者は被術者に對しては何事も同情を以てせなければならぬ、術者の精神には愛が満ちて居らなければならぬ、然らざれば偉大の効果は擧げ難い、凡そ何事でも確信なくして着手せんか、失敗に終るは當然である、故に此修養は獨り此施術上に必要なるのみでなく、百般の事業をなすに皆必要である、故に此修養は人として缺くべからざるものである。

### 第二節 催眠術室の準備

#### (一) 催眠術室には如何の装置を要するや

催眠術を行ふ豫備行爲として色々の準備を要します、其中重なるものを申しますと、第一に施術室の準備であります、施術室としては莊嚴な静かな室が一番好い、治療を營業としてやるには、施術室を相當に準備して其室内に神佛を祭

催眠術を行ふ豫備行爲

施術室内に  
は神佛を祭  
り置くを要  
す

施術室は静  
穏よい

つて置く必要がありません、神佛は何々と限らず日頃信仰して居る神佛の社詞又は像或は掛物を掛けて置き、朝夕及び施術前に必ず禮拜しなければなりません、素人が單に研究し實驗をするには室内を取片付て、強い光線が入らぬやうにして置けば足ります、外國で専門にやる人の中には金が澤山取れますから、椅子でも寢臺でも工風を凝らした美麗な者で、室内にては何等の音響も聴へない様に設備をして置くさうであります、日本ではさう大袈裟な設備をして居る所は聴きませぬ、施術室は成るべく静にして、其室内又は隣室にて嘶を禁じ、音をせないやうにすることが必要であります、それから夏は成るべく涼しくし、冬は成るべく暖にし、寢臺があれば寢臺の上に寝るは本式ですが、寢臺がなければ、室の中央疊の上へ夜寝るときは敷蒲團を敷いて其上に寝かし、薄き布團又は衣服を一枚其上にかければ、夫れで足りります、ハンケチを用意して置いて施術中被術者の眼の上にかけるさよい。

### 第三節 施術上に必要なる術者の態度

#### (一) 術者が施術するとき守るべき態度

術者の態度  
は莊嚴なる  
を要す

術者が被術者に對する態度如何は施術の成功不成功の上に大關係がある、故に術者は被術者に對するときは施術服を着するか、羽織袴を着するかして威儀を正し、力めて身體を真直にし、胸を張り尻を後に引き、下腹部に心力を凝め、身體を真直にし精神を統一し、神を禮拜する、其態度を終始崩さぬ様にして居ることが肝要である、座つて施術する場合にも、立て施術する場合にも、或は椅子に腰を掛けて施術をする場合にも、何時でも術者は其態度を成るべく崩さぬやうにしなければなりません、施術の方式たる撫下壓迫などをやる時も、身體を成るべく真直にして曲げないやうにして居るがよい、是れも自分の家でやるときは普通巧く往くものであるが、出張治療になると、勝手が違ひ色々な

催眠術を行ふ準備行為

ことに氣が奪はれ、態度を崩すことがありますから、出張治療のときは極めて精神を沈着にし、座蒲團又は椅子に座つたらば、其態度を定めて崩さぬやうに注意し、精神の統一を圖りて後に着手し、施術中は其態度を決して崩さぬ様にする事が肝要であります。

### 第四節 施術上に於ける術者の權威

#### (一) 術者には權威の必要なる所以

催眠術は高尚なる神聖なるものである、故に之を行ふときは、催眠術の神聖を保ち、且施術の効を全からしめむが爲に、術者は一大權威を以てせなければならぬ、術者より被術者の地位が高く、平常は術者の頭が上がらぬやうな、地位の高い人に對して施術する場合でも、術者は施術上に就ては權威者である、其被術者の名譽地位、權勢などに毫も恐れず、施術せねば効果が擧がりません、裁判

術者は被術者に對しては絕對無限の權威者たるを要す

裁判官の權威と術者の權威

官が刑事被告人に對する場合に、裁判官より地位權勢を持つて居る人が、誤て刑事被告人となり、法廷に立つたとき、其被告人より地位權勢の低い裁判官の裁判を受けることがある、併し裁判上に就ては裁判官は天皇の御名に依て裁判を下すので權威者の地位に立つて居るから、被告人何々と呼び棄てにする、權威を持つて居る、裁判官が裁判上に就ては犯すべからざる權威者たるが如く、催眠術者も又催眠術は神の御名によりて行ふもので、施術上のことに就ては、犯すべからざる權威を持たざれば充分の効果は擧りません、故に術者は被術者より生神様のやうに尊敬を受ける必要がある、而して術者も最善の努力を盡し、其施術の効を全からしむるのであります。

### 第五節 被術者に注意すべき事項

#### (一) 著者が施術を引き受くる條件

催眠術を行ふ準備行爲

女 催眠術

催眠術は軽々しく行ふ可きものでない、之を行ふときには六ヶ敷條件を設けて、其條件に満たないときは施術して呉れと云ふても堅く拒絶するがよい、然うしないど斯術の眞價を落し、惹いては失敗に終ることがある、それで私の所へ催眠治療をして呉れとて参つた病人があつたとき、其治療を引き受ける順序は、先づ其病人に治療規定を見せる、病人は其の規定を承知し施術料三回分なり六回分なりを前金に拂ふて其れに相當する、治療券三枚なり六枚なり求める、然ると其患者を患者待合室に通します、待合室には左の如き注意書を備へて置き、受術者に示します。

- 一、治療券(記入すべき欄あり)には住所、職業、姓名、年齢及び癒さむとする病癩の要點を漏なく御書き入れ下さい。
- 二、右終らば話をせず、閉目して神に全快を祈り、深呼吸を爲し、其呼吸を算へて居て下さい。
- 一、右二項は治療を受ける毎に御厳守下さい、之をよく御厳守被下御方は病癩が確に早く御全快になります。

此心得書を患者に示す、と共に尙口にも心得書と同様の注意を與へます、此の心得書をよく守る人は必ず深く催眠し、重病も容易に根治する、之に反して此心得書を守らぬ人、自分の施術の番まで待合すを體義に思ひ、セカノ一する人は施術するに非常に困難で、効果が擧り難い、又被術者が施術を受けるも、自分は催眠するかどうか疑はしい、病氣が癒るか何うか疑はしいけれども一度やつて見て貰はふと云ふやうな、疑念を持つて居りますと、矢張り施術がしにくくて其効が少くない、故に若しそう云ふ氣味が見えたら、必ず催眠する、必ず病氣は取れるとの確信を得さする様に嘸をして、而して後に施術することが必要であります。

(二) 催眠中の心持を如何に嘸すべきか

催眠状態は千態萬様であつて、被術者が豫期して居るやうな状態にならぬこと  
催眠術を行ふ豫備行爲



催眠した心  
持はこんな  
です

如何なる性  
質の人には  
治療の効が  
少ないか

が往々ある、それ故催眠中の心得を話して置く必要がある、それは普通斯う云ふ風に話します、催眠術を掛けられると、催眠中のことを覺醒後に何も分らぬやうになる人もある、又催眠中のことをよく覺えて居る人もある、催眠中睡眠した様にならず、雑念が起き居りても、周囲の音が分つて居ても手足が重い様になつて、動かすのが嫌になつて居る人、或は身體が軽くなつて空中に浮て居る如く覺ゆる人、或は身體が穴の中へでも引き込まれるやうに思はれる人、或は身體中何れかの場所が麻痺する人、は既に催眠して居るので、治療矯癖には充分の効果がある、と話して置くときよい、其事を術者が叮嚀に説明して聴かせても、其説明を耳に入れず、催眠に感ずれば催眠中のことは何にも知らぬ様になるものである、そのみ誤信して居る人には、施術が困難で治療上の効果が充分に擧らぬことがある。

故に若し受術者中斯る誤解をして居ると見たら、其誤解を説明して消滅せしむ

催眠によく  
感ずる人は  
幸福である

る必要がある、其誤解を上手に説破し、被術者をして成る程と感心せしむる様にすることを得ると否とが、施術の巧拙の分るゝ所であります。

(三) 深く催眠せざるは被術者の恥辱  
である所以

催眠者は不思議の現象を呈する故、世の中には催眠術に感じないことを非常に自慢にして居る人がある、俺は意志が鞏固だから催眠術に掛からない、催眠術に掛かる者は精神がボンヤリして居るからだ、と云ふ人があるが、是は大變な間違ひである。深い催眠状態になつた人の精神は、宇宙精神と合致した精神である、神人合一の精神である、偉大なる宇宙精神と合致し、又は全智全能の神と一致する精神となることは、非常に立派な名譽なことである、催眠術に能く感ずると否とは先天的の性質によりて分るゝ所であるが、精神修養を積めると

催眠術を行ふ準備行為

女 催眠術

否とは大關係がある、深く感ずる人程罪のない心の清い人である、心が清くなければ、神にはなれない、故に深く催眠するのを恥かしいと思ふのは大なる誤解である、美しい梅花を見て幽霊と錯覺し、戦々競々たる類である、其愚や笑ふべきである。

催眠術によく感ずる天性を以て居る人は一生の徳である、何となれば深い催眠状態になる人は、自己催眠に依てなりと、悲觀があれば樂觀に變へ、苦痛があれば愉快に變へることが自在に出来るからである、彼の同じ學校の學生中優等生あり、落第生あり、落第生は其罪其落第生其人にある、優等生は其功は優等生其人にある、落第生は其罪自身にあることを悟らずして、學校を怨み教師を罵らんか、其愚や憐むべきである、相當に研究せる術者の催眠を受けし場合に、深く催眠せないからとて、術者を攻撃せんか、落第生が教師を攻撃すると同一にして、其行爲や非常の誤りである、依之催眠術に感ぜざるは被術者其人の恥

深い催眠者は學生であれは優等生で浅い催眠者は落第生である

辱であることを自覺せしめ、而して後に催眠に着手すれば、必ず効果を納め得ます。

第六節 施術立會人に就ての注意

(一) 施術に立會人を要する所以

施術するときには施術室に立會人を置くことが必要である、それは被術者の不安と誤解を防ぐと同時に、術者の爲に最も必要である、殊に婦女子に施術をする場合には、是非立會人を置く必要がある、立會人に注意を與へて置かないと、稀には立會人が無意識に行ひし動作が施術の妨げとなることがある、私の所では立會人の心得を小さな紙に書いて、それを施術室に置き立會人に見せます、其心得を能く遵守する人は少ない、けれども中には能く其心得を遵守する人がある、其心得をよく遵守する立會人が伴つて來た病人は、早く癒るが、立會人

催眠術を行ふ準備行爲

立會人の心得如何によりて病人が早く癒る

女催眠術

心得を見ても、些ども遵守せない立會人が伴れて来た病人は、癒るにしても癒り方が遅い、其心得書には斯う云ふことが書いてあります。

立會人の心得

立會人御心得

- 一、受術者一名に付立會人は一名に限ります
  - 一、立會人施術室に入りしときは、神を禮拜して平癒を御祈り下さい。
  - 一、立會中は席を離れたり物音を立てませぬ様願ひます、故に咳の出る御方は立會人たることを謝絶致します。
  - 一、施術中は言語を一切發しませぬ様願ひます、若し質問がありますれば、施術終りし後にして下さい。
- 右御守り被下度候也

(二) 出張治療の場合に立會人に就ての注意

前段に述べた立會人御心得は、病人が術者の治療所へ来た場合には宜いが、術者が病家へ出張し治療する場合には、此規定を勵行することは困難である、何れ病家には普通親類又は懇意の者が数名居ることがあるからである、又出張治

不必要の人は  
は施術室を  
去らすが  
よい

療の際に、心得のない女中などが施術を見て居ると、術者の動作病人の催眠現象を見て其奇妙に感じ、私語したり稀には失笑したりすることがある、さう云ふことが若しあると、それが治療上に非常に悪い結果を來たします、故に極く必要なる立會人の外は施術室を避けさすがい、又施術室を避けさすと稀には、催眠術とはごんなことをするのだらうと思ふて、其れを見たい餘り隣室から唐紙を細目に開けて覗き私語するものがある、さう云ふことは施術上に非常な妨げになりますから、斯ることのない様に注意することが肝要であります。

第五章 催眠せしむる法

第一節 大人を催眠せしむる法

(一) 何人をも屹度催眠せしむる法

催眠せしむる法

感受性の高い人は容易に深く催眠する

施術者手前には如何なる準備をするや

今お話を致さうとする催眠法は、最も催眠感性の低い者を催眠せしむる方法であります、故に此方法に依れば、何人をもでも屹度催眠せしめる事が出来る、併し理想の程度に深く催眠せしめることは、催眠感性の低い人に對しては六ヶ敷いが、或る催眠程度には、百人が百人皆催眠せしめ得る方法であります、其代り非常に複雑した手数が懸る、此の方法を全部行へば感受性の最も低い人をも催眠せしめることが出来る、感受性の高い人は此の方法中の一つ又は二つの形式を行へば、直に深い催眠状態になります、先づ此法を行はんとするには施術室に神を祭り、室内を取り片付け、中央に敷布團を敷き置き、術者は身體を清め相當の服装をなし、威儀を正して初學者が實見するには、被術者は健康なる十二三才の少年を可とす、大人や病人は餘程研究が積んだ後にす可きである)に向ひ、催眠中の心持は夜眠つたと同様になるものもあるも催眠中の事をよく記憶し居るものもあること、催眠によく感ずる人は心の清い人で、幸福であることを嘯して

祈禱法

仰臥法

催眠せしむる法

(催眠術を行ふ準備行為参照)而して後に次の順序によつて行ふのであります。  
 (一)祈禱第一に祈禱を行ふ、兼て施術室内に祭れる神前に正座し、合掌瞑目して「ごうぞ神様私の精神を統一して、私の精神力は非常に強大となり、何某を容易に深く催眠せしめ得ます様に、して施術中は精神の統一が亂れませぬ様に、何某の精神の清らかを妨ぐる者を悉く除きます様に、而して何某の肉體を健康とならしめ給へ……」と祈禱すること約五分時間にして、施術に着手するのである。

(二)仰臥法第二に被術者を座敷の中央に敷いてある蒲團の上に仰臥せしむ、若し被術者婦人で広い帯を堅く結んで居り、又は大なる帯揚をして居らば、帯揚をどらし帯を弛めさし、身體を樂にさす、男子で洋服を着し高い「カラー」を着けて居らば「カラー」を取り、上衣のボタンを外して安樂に仰臥せしめ、兩手を兩側に垂れしむ、術者は其傍に座し、態度を正して被術者に向ひ「身體に窮窟

な所があつたら直して置きなさい」と注意し、楽な位置を探らせ、身體中窮屈の處の少しもない様にさす、而して術者は下腹部に力を凝め、深呼吸をなし神を念じて精神の統一を圖る。

撫下法

(三) 撫下法第三には撫下法を行ふ、術者の兩手にて被術者の前額部から手の先まで數回撫で下げ、又腰から足の先迄數回撫で下げる、其撫で下げ法は、術者の手先を軽く觸れて微動させ乍ら、精神力を籠めて撫で下げるのである、さういふ風に前額部から手の先迄撫で下げることを十數回、腰から足の先迄撫で下げることを十數回するのである。

數息觀法

(四) 數息觀法第四には呼吸を算せしめる、被術者に呼吸を荒く深く早くさせて、其呼吸を心の中にて一から五十迄繰り返して數へさせる。

筋固法

(五) 筋固法第五には手足の筋を固くさせる、被術者が兩側に垂れ居る、兩手を固く握る、兩足に力を入れる、兩手兩足に力を入れる」と暗示して、四肢を初め

筋弛法

全身の筋を固くさせて居ること五分時間。  
(六) 筋弛法第六には前と反對に手足の筋を弛めさせる「握つた手を開く、足の筋を緩める、身體中悉くの筋を弛める、尙ズツト弛める」と暗示して其通りにさす。

開握法

(七) 開握法第七は手を號令に依て、開握せしめる、一と云つたら握る、二と云つたら開く」と暗示し一、二、一、二と十數回云ひ其號命通りに手を開握せしめる。

閉閉眼法

(八) 閉閉眼法第八には眼を號令に依つて閉閉せしめる、複式催眠球(精神研究會發賣)を手に持ちて、被術者の眼前三寸位の處に支へ「一と云つたら眼を開き、二と云つたら眼を閉ぢる」と暗示し一、二、一、二と拾數回云ふて、號令通に眼を開閉せしめる、そうして次第に閉ぢて居る時間を長くし、開いて居る時間を短くし、遂には全く閉ぢてのみ居らするのである。

催眠せしむる法

閉眼筋弛靜呼吸法

言語誘導法

(九)閉眼筋弛靜呼吸法第九には眼を閉ぢさし手足の筋を緩めさし、呼吸を靜に殆んど止めて居る様にさせる、即ち閉目せしむると共に、術者の拇指と示指とを以て眼瞼を軽く抑へながら「手の筋足の筋を緩める」呼吸を靜にする「少しも呼吸の音が聽えないやうに、靜にする」と暗示し、撫下法を行ひつゝ「尙手の筋足の筋をズツと緩める」と暗示し其通りにさせる。

(十)言語誘導法第十には言語誘導法を行ひます「心が靜まる、靜まる、ズツと靜まる、尙ズツと靜まる、ズート〜〜靜まる」と暗示しつゝ、顫顫動脈を壓迫し「足の先より重くなつてくる」と暗示しつゝ尙ほ撫下法を行ふのであります。

之等の十種の形式を行ふに大凡三十分時間を要します、若し既に十種の法を行ひ盡すも未だ三十分時間に達せざる時は、前記の諸法中顫顫動脈を術者の兩手でよい心地に壓迫したり、前額部から手の先へ撫下げたり、又腰から足の先迄

撫で下げたりしながら「心は靜まる靜まる、尙ズツと靜まる」と暗示を繰り返すのである。

感應程度を試験する法

實驗終了の法

以上の諸法を行ふこと約三十分時間に及ばば、催眠したか否か催眠したとすれば其程度は浅いか深いかを見るのであります、即ち被術者の手を持ち舉げ「此の手は此儘に舉つて居る」と暗示すると其儘に舉て居る、其舉つて居る手に一寸觸れて「此の手は重くなつて下る」と暗示すると下る、一回の暗示で下らぬ時は數回心力を凝めて「其手は下る」と暗示すると終に暗示の通りとなる、此の暗示が感應すれば治療矯癖の効は確にある、即ち頭痛のする患者であれば「頭痛は癒つた」頭は壯快になつた」と暗示しつゝ、頭を撫でてやると頭痛は癒り、頭は壯快になる、尙詳細なる催眠深淺の測定法、不思議の現象を呈しむる、暗示法、病癰を治する方法は、各其章下に詳なるを以て参照せられたい、之等の實驗が濟みたら直に足の先より頭部に向て覺醒せしむるのである、即ち「足

催眠せしむる法

の方より血の循環がよくなつて来る」と暗示しつゝ、足の先より、遡に頭部に向つて撫で上げ、最後に「眼を開て見ると心身壯快になつて居る」と暗示し、其通りにするのであります、尙詳細の覺醒法は其章下に詳なるを以て参照せられたい。

## (二) 人間が催眠する原理

催眠術は哲學及び科學(心理生理)の應用と神靈の力とによりて行はれたるのである、術者が催眠の形式を行ふ時は、精神力を籠めて、此の方法に依りて確に催眠せしめ得ると確い信念を持つて行ふのである、術者の信念が強ければ強い程よく被術者に感應する、之は哲學の原理に基くのであります、又安樂の位置を採らせたり、撫下げたり、呼吸を算せしめたり、手足の筋を固めたり弛めたり、眼を開閉せしめたり、呼吸を荒くさせたり靜かにさせたりするのは、被術

催眠術は神  
力と哲學及  
び科學の應  
用とにより  
て行はる

進歩せる催  
眠法の説明

者の現在精神の働を止る工風に外ならぬのであります、顯在精神の働が止まり、潜在精神の活動する状態が心理學上より見たる催眠状態であるからである、又被術者の身體の上部より下部に撫で下げて、頭の方の血を足の方へ下げる、そうすると呼吸が靜まつて、催眠状態となるのである、生理學上より催眠状態を見れば、腦少血の状態に在る所以であります、換言すれば、催眠法の形式は何れも皆哲學と科學(心理生理)の應用に外ならぬのであります、之に依て前述せる種々の催眠法の形式は、皆其原理に叶ふて居ります、其上に術者及び被術者が神を祈り全智全能の神の力で催眠し病癖も癒るのであります。

## 第二節 少兒及び不具者を催眠せしむる法

### (一) 小兒を催眠せしむる法

催眠せしむる法

小兒は大人に比して簡單の方法にて催眠する

大人と小兒と具者と不具者とは催眠法を異にする必要がある、前節に述べたる大人を催眠せしむる法は、催眠法の原則で大人の具者を催眠せしむる方法である、依て茲には小兒及び不具者を催眠せしむる方法を述べませう、小兒を催眠せしむる方法は極簡單で足りる、小兒には呼吸を荒く深く早くして其れを胸中で算ると云つても算へられるものでない、殊に十歳以下の小兒には命じても無駄である、小兒の思想は極單純で無邪氣で、常に或る程度の催眠状態になつて居るから、催眠せしむることは實に容易である、小兒を催眠せしむるに最も好い方法は、小兒を椅子に僂らしても仰臥せしめても何れでも樂に居らしめ、眼を開かせて置いて、術者右手に複式催眠球を持つて小兒の眼に近づけ、少し動かし一二分時を経たら「眼を閉じて眠る」と暗示し、閉目せしめ術者の右手の人指と拇指との先にて兩眼瞼を軽く壓し、さうして「眠る」「ズーツと眠る」と言語暗示をなしつゝ、前額より手の先まで撫下すること、十數回なると、既に催眠して居ます。

(二) 不具者を催眠せしむる法

不具者を催眠せしむるには、不具者に適應する催眠法を行はなければならぬ、盲者に複式催眠球を眺めさせる事は出来ぬ、又聾者に言語暗示をしても無駄である、それ故聾者には筆談又は手真似の通譯で暗示をなし、盲目には凝視以外の法を行ふと云ふ様に、夫々適當な法を採らなければならぬ、其方法は大人を催眠せしむる法を準用するのである、又身體の位置も仰臥を可とするものあり、横臥を可とするものあり、其れ等も被術者の身體と精神とによりて、斟酌し工夫して行ふのであります。

第三節 拍手一つで催眠せしむる法

催眠せしむる法

不具者は不具者に適應する催眠法を案出するを要す



(一) 拍手口笛又は咳嗽にて催眠せしむる法

被術者に手を觸れず何等の語も發せずして催眠せしむる法

術者と被術者とは數間距離を居りて、術者が拍手をぼんと一つ打つか、口笛をピツと吹くか、又は咳嗽をすると夫れで深く催眠する、然ると其催眠者の傍へ何人が行き大聲を發し、催眠者の身體を動かし、或は催眠者を擔ぎ歩るき、催眠者の肉體に強い電氣を通じて、少しも知らずに居る、其ふ云ふ實驗を、私は官吏醫師新聞記者立合で何回となくやつた事がある、其實験の顛末が諸新聞に掲げられて名高い、斯様な催眠法は如何なる原理と方法とによりて行はる、かは、拙者「高等催眠學」を御覽になり、且私に實地教授を御受けになると容易に行ふことが出来ます。

第四節 壹回の施術に要する時間

(一) 早く催眠する者は一秒間普通三

四十分時間を要する所以

一回施術するとは第二回目には何の法を行へば如何の状態になるか、判明する

初めて施術する被術者で、催眠感性の鈍い人であれば、着手して相當の催眠状態となる迄に普通三十分時間を要します、稀には四十分も五十分も一時間二時間もかかる人がありますが、其れは例外です、一回施術をすれば、其被術者の感受性が分ります、例へば酒を馳走する場合に、彼は何合飲めば酔ふかは、一回飲ませて見れば確に判る、催眠術も其通りで、前述せる大人を催眠せしむる形式を一から十迄やらない内に、深い催眠状態になる人が多い、稀には其形式中の一二を僅か二三分行ひし丈で、深く催眠するものがある、一回施術すれば彼は斯々の方法をやれば、是れだけの催眠程度に進む、と云ふことが判ります、第二回目には其通りやれば其催眠程度に進む、催眠感性の高き人は、催眠せしむる法

催眠時間と  
治療時間は  
別

眠形式を一寸眞の瞬間行へば深く催眠する、而し乍ら普通治療を行ふときは、  
幾ら感性が高くて一瞬間に深い催眠状態となる人に對しても、治療の暗示を種  
々せざればならざるを以て、施術に着手してより覺醒迄に普通三十分乃至五十  
分位かゝりて施術します、其位時間をかけて施術しなければ、治療の効は充分  
に舉りません。

### 第五節 催眠法變更必要の場合

(一) 如何なる場合に催眠法を代へざ  
ればならぬか

催眠法を唯一種のみ覚え置き、何れの被術者に對しても、千遍一律に同一の催  
眠法を同じやうに行へば、同じに好結果が得られるものではない、被術者の異

催眠法は被  
術者の變る  
によりて變  
へなければ  
ならぬ

るに従つて催眠法を變へなければならぬ、被術者の精神及び身體に適合した催  
眠法でなければ、よい結果が得られませぬ、それであるから、拙著の高等催眠  
學には六十種の催眠施術法を書いてある、誠に食物の響應をする場合を御覽な  
さい、或る人に支那料理を出したら、喜んで喫べたからと云つて、何人にでも  
支那料理をさい出せば、皆喜んで喫べるかと思ふと、人に依つては、支那料理  
は眞平御免だ、淡泊な精進料理が好いと云ふ人がある、或は又辛子とか山葵と  
か辛い物が無ければ可かぬと云ふ人もある、又其れに反して辛い物を與へると  
泣いて嫌がる小兒がある、さう云ふ様に人によりて嗜好が異つて居る、それと  
同様に催眠法も人によりて適不適がある、それ故に被術者に對しては、催眠法  
を行ひつゝよく其精神を洞察して、今行ひつゝある催眠法が若し不適當である  
と思つたら、随時催眠法を變更して行はなければならぬ、其不適が如何して分  
るかと思ふに、其れを見分くる方法は、口にも云へず筆にも盡せぬ、實地に就  
催眠せしむる法

き習練を積むと自然に感得されます、併し其判定法中解し易き最も顯著なる場合を次に述べましょう。

(二) 撫下法及び言語法は如何なる被

術者には不適當なるや

一被術者に對して第一回の施術を終りたる時、其施術中に精神がよく静まらざりし様子が見えたるときは、施術中の心地を聴いて、判断するのである、撫下法を行へば好い心地になつて心が静まるべきであるに、撫下法を行ふと心が静まらないで、却て静まり掛つたのが昂奮し又「心が静まる」と暗示さるゝと心が静まるべきであるに「心が静まる」と暗示さるゝと静まり掛つた精神が却て昂奮すると云ふ人がある、そう云ふ性質の人であつたら其性質を見抜き又は聽いて其事を知り、其う云ふ被術者に對しては、撫下法と言語法とはやらないので

無言にして  
身體に手を  
觸れぬ催眠  
法が適する  
被術者

嘘の催眠術  
廣告

ある、而して被術者の身體に觸るゝ施術法を一切避け、身體に觸れぬ撫下をなしつつ、催眠すると心を凝めるのである、そうすると斯る性質の人は存外容易に催眠するものである、或る人は催眠中に撫下又は凝視を行ふのは、卑近の法であつて一瞬間に何人をも催眠せしむる新發明の法があると云ふも、其れは嘘です、其んな嘘に迷はされて、其んな本を買つたり其んな人に傳授を受けたりすると馬鹿を見るから、御注意なさいまし。

第六節 睡眠を除去する法

(一) 催眠に睡眠の混入せるは何如に

して知るや

術者が被術者に催眠法を行つた所が、催眠せずして睡眠して仕まつた、或は催眠せしむる法

催眠者は暗示に感ぜぬ者  
に暗示に感ぜぬ者  
は暗示に感ぜぬ者  
に暗示に感ぜぬ者

催眠に睡眠が混入して居れば暗示の感ぜぬ者  
は暗示に感ぜぬ者  
に暗示に感ぜぬ者  
に暗示に感ぜぬ者

眠したるが睡眠が混入して居る場合は、如何にして其れを見分けるか、催眠に睡眠の混入して居る場合には、暗示の感ぜぬ者である、手が挙がる時暗示しても、容易に挙がらぬ、手が下ると暗示しても容易に下らない、若し全く睡眠したのであれば、被術者の手を持ち上げ「此儘に舉つて居る」と暗示してもグタリと下がつてしまふ、之に反して少しも睡眠が混入せず純粹の催眠であれば、暗示の通りに極めて活潑に働きます、即ち「手を開く」と暗示すれば手を活潑に開く「握る」と暗示すれば活潑に手を握ります。

### (二) 催眠に睡眠の混入せるを除去する法

言語暗示をなしつゝ催眠者の身体に刺戟を與へると睡眠は除かるる

催眠に睡眠が混入して居るときは、其睡眠を除くには、術者の兩手を被術者の兩肩へ當て、肩を壓迫しながら「深く眠れば眠るほど私の云ふことが能く聽える、尙ズツト深く眠る」と暗示しつゝ、其兩手にて兩肩に刺戟を與へるか、又

は下腹部を術者の手で、壓迫するか、すると睡眠が取れて、暗示の感ぜぬ者になり得ます。

### (三) 如何にしても覺醒せぬ睡眠者に對する處置

如何に深く睡眠せる者にも刺戟を與へると直に覺醒する

無邪氣なる子供を、催眠せしめたる場合に、稀には非常に深い睡眠となり、術者の手を肩に掛けて荒く動かしても覺醒せず、被術者を抱ひて歩いてても、如何にしても覺醒せざるものがある、そういう場合には、其睡眠者の鼻孔へ紙振を差入れるとすぐ覺めます、覺めるや又再び催眠法を行へば、普通には純粹の催眠状態を得られます。

## 第七節 被術者の精神を看破する法

(一) 術者を欺かすとする被術者に對する處置

様子見の被術者に對する處置

催眠術を行ふに當り失敗を避けんとせば、催眠術は輕忽に行はざるにあり、假令被術者が依頼するも、一寸した病氣なれば薬用を勸めて施術を謝絶すべきである、薬用で治らぬ病氣であり、又施術して治す外道なきと術者も被術者も認めたる時初めて施術すべきである、又術者は被術者の心を看破せなければならぬ、其看破を誤れば、其施術は多くは失敗に終ります、術者たるものは被術者の信念が乏しいか否か、懷疑の念を以て居るかどうか、が判らぬやうでは熟練した術者とは云へぬ、假令は催眠術とはごんな事をするのか、僅か二三圓の金で様子が見られるなら、安いものだから見て来ようと云ふ考へで、稀には私を尋ねる方があります、そう云ふ人は舉動ですぐ判る、又催眠法に着手して數息

神聖なる術を汚す愚者

観を命じても、命じた通りにやれば催眠するからやる様に見せてやらすに居る、瞬をせずに凝視をすると、命じても命せられた通りに、瞬をもせず見て居ると直に催眠するから、催眠せない様に瞬をする、若しそう云ふ徴候が見えたらば、斯かる輕忽の考へで受術すると神聖なる術を汚すことになり、又貴君の爲によくはないこの旨を暗示をする、然かすると被術者は如何して術者が自分の心中を知つたかに驚く、其一刹那に催眠に誘導する言語暗示を行ふ、と忽然催眠状態になります。

(二) 被術者を欺かんとして看破されたる實例

被術者斯術を信する信念が不充分なるにも拘らず、輕忽に施術を受け、施術後に術者と大争論をしたことをよく耳にする、東北で名高い福島民友新聞記者清催眠せしむる法

信念の乏し  
き被術者を  
ば術者に紹  
介すべから  
ざる教訓

野平三君が、丁度さう云ふ目に遇つた事を私に話した、清野君の所へ或る紳士の紹介で治療をして呉れと云つて来た人がある、清野君は紹介者たる紳士を信じ、早速快諾して治療をした、所が其被術者は真面目に治療を受けに来たのではなくて、催眠術を清野さんがやるそうだが、何んな事をするものだから、様子を見ようと云ふ考であつたことが施術中に判つた、けれども其日は其れで施術は済んで被術者は歸つた、あとで清野君が其被術者を紹介した紳士に會つて、君が僕の所へ紹介した被術者は僕の術を試みに来たのだと話したら、其紳士は病氣で困ると云ふから同情を以て紹介してやつたのに其れは飛んだ氣の毒のこどをしたと思ひ、紳士は直に其被術者に會ひ、術者たる清野君より聽きたる處によると君は病氣と偽り術を試さんとして術を受けたのだ、と云ふが如何に、と問ひたれば、其被術者は大に驚き、夫れが術者に判かつたのかと、大に後悔した、それから時経てもう數年を経たけれども、其被術者が術者たりし清野君

と途上其他で顔を合はすことがあれば、其被術者は良心の苛責を受け顔色を變へ困つた状態を呈したと云ふ。

(三) 患者を術者に紹介する場合の心得

被術者を術者に紹介するときは、紹介者は其被術者の信念如何をよく確かめ、自分の信念を認め術者を信頼する念厚くして、二三次の受術で全治せざるも他の療法に代る如き疑念断然なくして、術者の力で治せない時は終生病氣で終る、この決心を認めし後に紹介する様にせないと折角の親切が却て相互の仇となることがある、私の處にも前述清野君の如きことが往々あり、爲に多年懇意に致し來りし間が一朝にして不和となりし事がある、依て催眠術を行ふ者は能く被術者の心中を看破し、其れに適當する處置を採る事が必要である、と共に被術者を紹介せんとする人は、其被術者が術者を神の如く信じて、術者を大に信頼

催眠せしむる法

信念の不充  
分なる人を  
ば決して被  
術者として  
術者に紹介  
すべからざ  
る所以

する人であることを、確に認めざれば決して紹介してはなりません。

### 第八節 初回の施術に成功する秘訣

- (一) 初回の施術には如何なる被術者を可とするや

最初は少年を被術者として研究し、後に成年の病人を施術するのが順序である

催眠術を施す方法を書籍にて獨習し、初めて實驗するときには、先づ少年を被術者とするが宜しい、十歳から十三四歳の少年を被術者としてやれば、大低成功する、併し若し一人の少年に就て試み、巧く成功せないときは、又別な少年に就てやつて見、而して五六人の少年に就てやつて見ると、其中には必ず成功する、それを最初から手をとつた重い病人を催眠せしめようとするに失敗する、殊に神經衰弱の患者は素練の術者でも催眠せしむることが困難である、故に初

信念失落の原因

學者は數名の少年に就て、數回又は數十回實驗を重ねて、充分の信念と研究とを積みし上に、歳を取りし健康體の人を數多被術者として試み、大に成功し、大確信を得て而して後に病人に對して施術するのが順序である、始の施術は最も肝要で、始め失敗すると術者自身の信念を損じ、又世間の信用をも失ひ、場合によりては其れが爲めに取り返しの付かぬ、不信用の原因となることがある、故に殊更に最初の施術には慎重の態度を採るを要します。

## 第六章 催眠覺醒法

### 第一節 催眠者を覺醒せしむる法

- (一) 精神的心理的生理的覺醒法とは何ぞや

第一精神的覺醒法は精神力丈で覺醒せしむる方法であります、暗示に精神力

精神力のみで覚醒せしむる法

言語のみで覚醒せしむる法

丈けの暗示がある如く、覺醒法にも精神力丈けの方法がある、術者は姿勢を正し、心力を凝めて「眼が覺める」「除々と覺める」と強烈に觀念すると其觀念通りに催眠者は眼を覺まします、何となれば術者と被術者とは「ラボー」の關係が付いて居るから、術者が眼を覺ますと觀念すれば、それが催眠者の精神に移送され、催眠者の精神及び肉體に術者の觀念が通じて眼が覺めるのであります。

第二に心理的覺醒法これは言葉丈けで覺醒させる方法であります、「眼を覺ます準備をする」「足の先から次第に覺める」「足の先から腰に向つて血の循環が良くなつて来る」「手の血の循環がよくなつて来た」もう足も手も胸も頭も悉く醒めた「私が一二三と云ふ、三で眼を開いて見ると、全身爽快になつて居る」と暗示をすると其暗示通りとなる、之が心理的覺醒法であります。

第三生理的覺醒法、生理上より催眠状態を見れば、催眠者の頭の血液は足の方へ下つて居る状態であるから、足の先から逆に腰に向つて撫で上げて、足の先

足の先より頭部に向つて撫で上げて覺醒せしめる法

精神的心理的及び生理的併用の覺醒法

の血液を上へに擧げる、次に腰から頭に向つて撫で上げ、頭部を撫でて最後に眼を開かするのであります。

### (二) 完全なる覺醒法は如何

完全なる覺醒法は前段に御話した心力のみの精神的覺醒法と、言語を用ゐる心理的覺醒法と、手を觸れて行ふ生理的覺醒法との三つを一度に併用するのである、此の法は治療上患者を覺醒せしむる良い法である、併し公衆に示す實驗的覺醒法は斯る複雑した覺醒法を用ひません、公衆に示す實驗としては、被術者は成る可く感性の高い者を選び、拍手を「ボン」と一つ打つと直に深い催眠状態となり、奇妙奇體列の状態を現出する、覺醒させるときは、催眠者の肩を「ボン」と一つ拍つと催眠者「バツ」と眼を開き覺醒するやうに、巧に迅速な方法を採ります、併し病人を治療の爲め施術する場合に、さう云ふ風にやると、弊害



があるから治療の場合には極めて除々と催眠させ、又除々と覚醒させます。

(三) 何故に除々と覚醒せしめざれば

ならざるや

催眠者を忽然覚醒せしむると心身に如何なる変化あるか

治療を目的とする施術は催眠を覚醒せしむるときは、何故に除々と覚醒せしめざればならぬか、催眠状態と覚醒状態とは、生理上心理上其状態が非常に違つて居る、其異つて居る状態を突然變化せしむれば害があるからである、催眠状態は頭の血が足の方へ下つて、頭の血は少なくなつて居る、それを突然普通の状態たる頭に血を多くすることは弊害がある、又深い催眠者は顕在精神は無想となりて、潜在精神が活動して居る状態である、然るに突然覚醒せしむると、其精神状態に俄然變化を來たし害があるから、次第次第に徐々と覚醒せしむるのである、殊に病人は徐々に覚醒せしめなければならぬ所以であります。

第二節 催眠者を覚醒せしめ得る人

(一) 催眠者を覚醒せしめ得ざる人

催眠者を覚醒せしめ得る人は、原則としては催眠せしめた術者である、催眠せしめた術者以外の人は如何にしても覚醒せしむることは出来ないのが原則である、併し之は催眠が第三期の深い催眠状態に進んで居るときに限る、催眠が浅くして第一期第二期の状態であれば、初め催眠せしめた術者に非ずとも、覚醒せしむることが出来る、第三期の深い催眠状態にある催眠者に向つて、術者が「私以外の人は覚醒せしむることが出来ぬ」と強く暗示して置くと、其術者以外の人が如何様にしても覚醒せしむることが出来ぬ、身體を擔つて歩き、耳元で喇叭を吹きても覚醒しません、況や肩に手を掛けて揺るとか、大聲で「眼を覚ませ」と叫んでも何等の反應がない、さり乍ら、術者より術が長けて居る人

催眠せしめし術者以外の人が覚醒せしめ得る場合

が、秘術を盡して「ラボー」の關係を付けること、覺醒せしめることが出来る、又術者が何人にも覺醒權能を與へると其與へられし人は覺醒せしむることが出来る、例へば術者が「何の某の云ふことは私の云ふこと」と同様君によく聽え、君の身體は何某の云ふ通りになる」と暗示し置くこと其通りになります。

### 第三節 容易に覺醒せざる催眠者

#### (一) 覺醒法を行ふも覺醒せない催眠者に對する所置

催眠せしめたるも、其催眠を覺ますことが出来ないで大騒ぎになつた、と云ふ話がある、第二期以下の淺い催眠状態であれば、決して此心配が無い、第三期の深い催眠状態にある催眠者で、術者との「ラボー」の關係が突然切れ、術者の

如何にして  
も覺醒せぬ  
催眠者の生  
ずる理由

覺醒せしむ  
ること出来  
なかつた催  
眠者

暗示が更に感應せなくなり、幾ら覺まさうとしても覺めないことがある私の所で二度さういふことがあつた、さういふ事が萬一あつても、術者は狼狽せず、落附いて、其因て來れる原因を考へて、それに對當する手段を採れば、バツと覺醒する、私の經驗した二例中の一つは、私の所へ研究に來て居た人で、少し酒亂の癖ある人を被術者にした場合で、私の處に居りし研究生數名の實見中に起りしことで、催眠者に幻覺の酒を澤山に飲ました、所が非常に銘酩して狂人になつて、誰が何と云つても少しも云ふことを聞かぬ、又如何様に覺醒法を行ふも覺めない、研究生一同吃驚して、私にその趣を話された、故に私はそれに對する原因を考へて、原因に基き、大なる權威を以て覺醒法をやつたら、直ぐに覺めた。

其れからいま一例は私が群馬縣へ旅行をした不在中の出來事であつた私の所に居つた小僧を私の所の研究生數名が實驗した處が、どうしても覺醒しない、

満二日間覺醒しなかつた、私が旅行先から歸つて其事を知り、私が考察し施術したらラポーの關係直に付き覺醒した、其催眠者催眠中の二日間は催眠して居りつゝ、飯も食ひ、便所へも行つた、其ういふ例は稀であるが、若しそう云ふ場合に遭遇したらば、決して狼狽せず、落ち付いて其原因を考へて、大なる權威を以て原因に合ふ覺醒法を行ふことが必要である。そうすると直に覺醒します、私の實見した右の二例に付き、若し私が長日月居らなかつたら、如何なる事になりしかを深く考察すると、寒心せざるを得ない、故に研究が不充分なる間は、種々な新しい實見をすることは、大に慎しむべきことであります。

### 第七章 催眠術上に於ける不思議の現象

#### 第一節 觀念運動及び模擬運動を

##### 起す法

手が舉ると  
思ひしのみ  
で手は實際  
に擧る

#### (一) 觀念運動とは如何なることぞ

催眠術上不思議の現象中著名の者を簡単に御話しようと思ひます、先づ觀念運動及び模擬運動に就て御話し致します、觀念運動は其名の如く、單に觀念すれば觀念の通りに肉體が運動する現象であつて、術者が催眠者に向つて「君の手が上がると思ふ」と暗示すれば、催眠者は手が上がると觀念する、すると催眠者の手は不識不知實際上がる、身體中何れの部でも斯くの如く暗示すれば其觀念の通りに催眠者の身體は運動します、其現象中著しきものは、催眠者に筆を持たして置き、術者が「東と思ふ」と暗示すると、催眠者は不識不知東と云ふ字を書きます。

催眠者の觀念は覺醒者の觀念とは異りて觀念の力が非常に強いから現象が表はれるのである、此觀念運動の理によりて精神療法は効を奏するのである一病

催眠術上に於ける不思議の現象

病氣は癒ると思ふと眞に癒る

女催眠術

氣は癖る」と暗示すれば、催眠者は病氣は癒ると觀念し、其觀念通りに病氣は癒るのである「精神が愉快になつた」と暗示すれば、催眠者の精神は愉快になるのである、此現象は催眠程度が餘り深くなくとも行はれる、第一期の催眠程度にても行はれるが、催眠は深い程巧みに行はれます。

(二) 模擬運動とは如何なることぞ

模擬運動は術者の運動を催眠者が眞似ることである、其顯著な例へは、深い催眠状態にある者の前に術者が直立して居り、催眠者に術者の姿勢を見詰めさせ置き、術者も催眠者を眺め居り、術者が自身の手を上ぐれば、催眠者が手を上ぐる、術者が下ぐれば催眠者も亦手を下ぐる、術者が催眠者の前に於て何とも云はず品性を高める行爲を示せば、催眠者は知らず識らず品性を高める、之に依て是を観るに、術者の一舉一動は實に慎重を要する所以である、此現象の多

術者の品性通りに催眠者の品性が變る

くは第二期の催眠程度で行はるゝも、微妙なる現象は第三期に進んで初めて行はれます。

第二節 幻覺錯覺を起す法

(一) 幻覺錯覺とは如何なることぞ

催眠術に依て被術者に幻覺及び錯覺を起さることが出来る、幻覺とは無い物が有る様に、有る物が無い様に感ずるのである、錯覺とは或物が他の物體に變つて感ずるのである、時正に寒中にして催眠者の眼前に何物も無いのに「櫻花爛漫として咲いて居る」と暗示すれば「爛漫たる櫻花が見える、身は施術室内に居るのに「此處は日比谷公園である」と暗示すれば日比谷公園に居ると思ひ周圍に花木が見える、之は幻覺であります、又座蒲團を抱かせて猫に思はせ、鹽を嘗めさせて砂糖に味はせるが如き、類を錯覺と云ひます。

催眠術上に於ける不思議の現象

寒中に櫻花が見え座蒲團が猫に變る

未亡人死せる夫に逢つた

此作用を應用して、未亡人をして死んだ亭主に逢はせたり、遠方に居る我子に逢はせて話をさせたり、又は苦勞な仕事を樂に取扱はしたり、不器用な藝術を器用に演せしめたりすることが出來ます。

(二) 物理學生理學にて説明し得ざる不思議の現象

不思議の現象

術者の暗示通りに視官に種々の物が見へるのみでなく、其他の五官即ち聽官でも、嗅官でも、味官でも思ふ儘に如何様にでも感應せしむることが出来る、是れは催眠術上不思議の現象として、世人のよく知つて居る所である、此現象をよく含味すると、催眠術は治療上に偉大の効果があることが認められます、單に生理學上物理學上よりのみ見れば、耳なり、目なり、口なり、總ての感覺器官は刺激がなければ、刺激の感覺が起る筈がないのである、然るに生理的又

物理的の刺激より精神作用の方が強い

嫌ひな仕事に嗜きになる

は物理的に何等の刺激がないのに、刺激があつたと同様に感じたり、或は刺激があるのに何等の感じが無いのはどう云ふ譯であるか、五官の感覺は精神作用によりて左右せらるゝものであつて、物理的又は生理的の刺激よりも精神作用が大なる關係を有つて居る證據である、それであるから嫌な感覺を嗜きな感覺に變へることも出来る、嫌な感覺を全く無くして仕舞ふことも出来る、それから僅かな好い感覺を非常に大なる好い感覺となすことも出来る、此作用を應用して嫌ひな仕事を嗜きにし、嗜きな遊び事を嫌ひにすることが出来るのであります。

第三節 記憶を増減する法

(一) 一度五官に觸れたことは終生忘れざる事實

催眠術上に於ける不思議の現象

無學の下女  
英語を語る

催眠術にて催眠者の記憶を左右することが出来る、人は生れてから種々雑多な事を見たり聞いたりする、其事の多くは忘れて居るも、實際は一旦感じたことは、總て悉く潜在精神となつて居る、それが普通には浮み出ぬのである、其次第は催眠術の實驗に依り明に知ることが出来る、英語を知らぬ少女が催眠状態中突然英語を語り出したことがある、それは久しき以前に、其少女が英國人の所で子守をして居つた、其時に英語を聞いたのが潜在精神となつて居た、それが催眠状態中に現はれたのである、それから最も驚くのは私が實驗をした中に斯う云ふのがありました、大抵な人は佛教の僧侶の御經を聞いたことがある、僧侶ならぬ素人には、其御經の文句は薩張り分らない、けれども一度聞いた御經の文句は腦裡に印象されて潜在精神となつて居る、故に或る人を深い催眠状態となして、其人格を僧侶に變へ、御經を讀ましたら曾て聞いた通りに御經を讀んだ、私の所に居つた無學の下女を音樂會にやつて、英語の歌の獨唱を聞か

俗人御經を  
讀む

悲觀者樂觀者  
者に記憶減弱者  
弱者記憶強壯者  
に變る

せ、歸りし後催眠せしめて、其音樂家に人格を變へて、英語の歌を唱はしたるに、實によく唄つた、これらの例に依つて見ても、一度五官に觸れたことは、腦に染みて消えずに居ることが明らかである、覺醒時に於てそれを回想することの出来ないのは、顯在精神が働き居りて邪魔になり、潜在精神が浮み出づることを得ざるが爲である、催眠術は顯在精神を無想にして、潜在精神を働かす方法であるから、潜在精神の知り居ることはよく現はれるのであります。

(二) 煩悶の原因を忘却させ又は記憶力を増進することを得る所以

催眠術上の暗示によれば、潜在精神の再現を活潑にすることを得るのみでなく、再現せざる様にすることも自在である、其作用を應用して實用的効果を擧げることが出来る、或一事が強く腦に染みて忘れんとしても忘るゝことが出

催眠術上に於ける不思議の現象

來す、煩悶し悲觀する人があれば、其煩悶悲觀の原因を全く忘れさせ樂觀者と  
することが出来る、それから歴史と地理の暗記が下手で、嫌ひで困る學生には  
夫れを覺えさせることが出来る、即ち記憶力の悪い人を善くすることの出来る  
事は著名の事實であります。

### 第四節 精神を移送する法

#### (一) 術者の精神と被術者の精神とは無

##### 線電信の如き働きをなす實例

催眠術によれば術者の精神を催眠者に移送することが出来る、催眠者が第三期  
の深い催眠状態になつて居れば、此現象を明白に起すことが出来る、恰も術者  
の精神は無線電信の發信機の如く、被術者の精神は無線電信の受信器の如き働

象 心靈的の現

術者は神の  
如き清き精  
神となるを  
要する所以

精神移送に  
よりて病癱  
が癒る場合  
と豫期作用  
によりて癒  
る場合とあ

きをする、術者と被術者とは遠く離れ居りて、術者が愉快に快潤にと強く觀念  
すれば、被術者の精神が愉快に快潤になる、術者が道徳を堅く遵守すると強く  
觀念すれば、被術者も亦道徳を堅く遵守する精神になるそれを、證據立てる實  
験として、術者被術者數間離れ居りて、術者が砂糖を話めれば、被術者の口が  
甘くなる、術者が鹽を舐めれば被術者の口が鹹くなる、之に依りて術者の精神  
が被術者に移送されることは最も明である、故に術者が精神療法を行ふに當つ  
ては、精神は清かに神の様になつて、肉體は愛に満ちて患者に深く同情し、如  
何にかして救ふてやりたいとの觀念を強く持つを要す、其際聊かにても術者が  
不快な觀念を持ち、又金にさへなればよいとの心で施術せば、其精神療法は無  
効に終るが常である、故に術者の人格を大に云爲する次第である。  
稀には術者の精神の感應に依らずして、只單に患者の豫期作用のみに依りて重  
病が癒ることがある、施術するに術者は患者の病氣癒れと強く觀念せざるに、  
催眠術上に於ける不思議の現象

患者の心にて術者の術を受けさへすれば吃度癒ると豫期し、其豫期の結果癒ることがある、豫期作用によつて病癖の癒る場合あるも、それは變則にして精神移送によりて癒るが原則であります。

### 第五節 人格を變換する法

#### (一) 男が女に老人が小兒に變換する事實

催眠術にて催眠者の人格を變換することが出来る、茲に謂ふ人格とは人格の養成などと云ふ意味の人格とは其意味を異にする、精神修養上の人格は、性格と見るべきもので爰に云ふ人格は、過去の記憶を統一したる精神状態を云ふのである、例へば女學生を催眠せしめて、其人格を大隈侯爵に變換すれば、其變換された女學生の精神は、大隈侯爵になつて仕舞ひ、其態度は大隈侯爵其儘になる、小兒が老人に變換し、老人の態度をなし、老人の言語を發し、老人が小兒

人格と性  
との違ひ

機樂として  
も妙

に變換して人を笑はせ、或は無藝者が有藝者に變換して歌を唄ひ踊を踊り、義太夫を語り、薩摩琵琶を弾きて人を喜ばし、或は無學者が學者に變換して詩歌を作り、演説をなして人を驚かす、此實驗は私が多くの貴顯紳士の面前で致したことが時事新報、萬朝報、國民新聞、朝日新聞、やまと新聞、東京日々新聞等の諸新聞に屢々掲載されたことがある、人格變換を行ふには、催眠者は最も深く催眠して居らなければならぬ、催眠中のことを覺醒した後には、催眠者は最も程度に深く催眠して居らなければならぬ、深い催眠者に向つて「私が今一二三と云ふ、三と云ふと共に君の肩を軽く打つと君は大隈侯爵になる」と暗示し、其通りにすると大隈侯爵に變換します。

#### (二) 人格變換は治療上に大効がある所以

人格變換を治療上に應用すると、重病者も即座に健康者になる、吃音者を能辨催眠術上に於ける不思議の現象



吃音者直に  
能辯者にな

者に人格を變換すれば、能辯者となりて滔々懸河の辯を揮ふ、算術の下手な者を算術家に變換すれば算術は何でも上手にやる、此働きは催眠が覺醒すること共に消えて元の人格に戻るが、暗示を以て「覺醒後も尙催眠中の如く能辯者となりて居る」算術家となつて居る」この暗示を與ふれば、其暗示通りに覺醒後は催眠前とは全く變りし人となつて居ります。

### 第六節 千里眼を養成する法

#### (一) 千里眼とは如何なる事ぞ

坐ながら千  
里の遠くを  
見開して箱  
中の文字を  
讀む

催眠術を應用して千里眼を養成することが出来る、被術者を非常に深い催眠状態となし、神に人格を變換して「神様には此世の事は如何に遠方の事にも、過去現在未來を問はず何事でも解る」と暗示すれば、催眠者は一室に居ながら千里遠くの事も實地其場に臨んだ如く、明かに見えて何でも尋ねることを語る、

過現未を看  
破する法

それから二重三重の木箱或は鐵箱の中に入れ置きたる品物なり文字なりを透視さすると之れも當てます、千里眼で私は過去現在及び未來の出來事をよく當てた實例が澤山に在る、非常に面白い不思議の例が澤山にある、併し此事は他書に譲りて爰には省略する。

## 第八章 催眠術が學理上教育上宗教

### 上に及ぼす効果

#### (一) 催眠術は學理上に如何なる効果あるや

催眠術の効果は種々ありまして、百般の事業に之を應用することが出来る、併しながら最も著名にして大なる効果は治療上で、之に次いで學問上、教育上、宗教上に於ける効果であります、以下に之を述べませう。

催眠術が學理上教育上宗教上に及ぼす効果

女 催眠術

催眠術が學問上に及ぼす効果の重なるものは、之に依て哲學上の諸問題或は心理學上の諸問題を解決するを得ることである、哲學上に於ける宇宙精神を、客觀的に見ることが出来る、亦哲學上の一元論が正しいか、二元論が正しいか、唯心論が正しいか、唯物論が正しいか等の諸問題を解決するに大なる力となる、又心理學上に於ける感覺知覺感情と精神との關係を實驗するに最も良い方法であります。

(二) 催眠術は教育上に如何なる効果あるや

學校教育又は家庭教育上最も困難を感じる所の低能兒、不良兒若くは單に數學が出来ない、英語が嫌ひである、或は教師若くは父兄の言ふことを肯かない、嘘を云ふ、人の物を盗む、と云ふ類の惡癖の中、何れかの惡癖がありて、父兄

又は教員をして困らすものがある、そう云ふ癖を矯め、善良な子弟とすることが出来る、是は催眠治療の一大特色である。  
數學が嫌ひで、學校の成績が悪い子供がある場合に、催眠治療に依れば容易に癒すことが出来る、醫者の所に行つて數學が嫌ひで、學校の成績が悪いから、數學が好きになり、學校の成績が良くなる薬を貰ひたいと云つても、さう云ふ薬があるべき筈がない、然るに催眠治療は、精神を變化させ、嫌ひのものを好きにし、好きなものを嫌ひにすることを得る作用を持つて居るから、嫌ひで下手な數學が好きになり、上手になるのであります。

(三) 不良の子弟を有する家庭の福音

つい先頃某大家の奥さんが、少女をお伴れになつて「此少女は非常に活動寫眞が好きで、毎夜缺かさず行き度くて困るから、嫌にして呉れ」と頼んだ、又或

催眠術が學問上教育上宗教上に及ぼす効果

人に嘸せぬ  
病辭者のあ  
る家庭の主  
婦は之を習  
得し置く  
便利である

家門の恥を  
世に知らさ  
ずして済ま  
した實例

奥さんは小兒をお伴れになつて「此兒は間食の癖があつて困るから癒して呉れ」と頼んだ、さう云ふことには最も効果があつて、即座に其癖は矯められました、或は商家の丁稚子僧で嘘を云ふて遊ぶ癖、錢を盗み買ひ食ひをする癖、下女で主婦の悪口を云ふ癖、下女でありながら令嬢の眞似をしたがる癖、愛嬌の悪い癖、多辯な癖、無口な癖、其他種々持て餘した子女を、私の所へ連れて来て、其悪癖を矯正して善良な人とした實例が澤山あります。

某大家の令嬢で人に嘸せぬ、悪い病氣がある、斯様の病人があることが世間に知れると、其令嬢は勿論のこと、兄弟姉妹の縁談の差支になり、家門にも關係する、其處で其主婦は私を尋ねて窃に斯術を研究し、誰にも知れぬ様に令嬢の悪病を癒したことがある。

#### (四) 催眠術は宗教上に如何なる効果あるや

るや

催眠術を應  
用せし宗教  
家は大に繁  
昌せり

宗教上の奇  
蹟と催眠現  
象とは一致  
する

古來宗教上の奇蹟として世人が熟知する所の不思議の現象は、催眠術に依て悉く解決し得ると信じます。

昔の大宗教家は大概知らず識らず催眠術の暗示現象を、布教上に應用して大なる効果を挙げたことは明らかである、今日の宗教家中惘發にして、信者を多く吸集した宗教家は、暗に催眠術上の暗示現象を應用した事實を私は知つて居る

私は先年「宗教奇蹟研究」と云ふ本を書きました、其書の内に基督教、佛教、神道此三つに跨つて有りと有らゆる奇蹟を挙げて、宗教上の奇蹟は、催眠術上の現象と一致することを論じました、その點に就て、御研究のお志のお方は其書を御覽下さい。

#### (五) 心靈を感得する唯一の方法

催眠術が學理上教育上宗教上に及ぼす効果

女催眠術

催眠術によれば心霊の働きを感得することが出来る、即ち術者と催眠者とは遠く離れ居つて、術者の精神が催眠者に傳はつて行き、術者の觀念したる通りに、催眠者の肉體に影響を及ぼす現象の如き、又催眠者閉目し居りて、二重の箱中にある文字を讀む如き實驗に依つて、宗教上に言ふ心霊の存在を否定すること出来ぬと思ふ、然るに世の宗教家中には、催眠術を研究せざる故に、心霊の働きを認めずして、宗教上の説教をなし、信仰せよと勸む、多くの人は其宗教家を訪ふて説教を聴き、信仰を求めんとしても需められずして、大に煩悶する、之は信者の罪にあらずして宗教家の罪である、宗教家は之を研究して、心霊の働きを認め、而して信者に其働きを認めさせる様にしたならば、信者は眞に信仰を得、救濟せられ、其宗教家の門前は期せずして市を成すでありませう。

第九章 催眠治療の効果

第一節 催眠治療で癒し得る病癖

(一) 後天的の病癖は癒るが先天的の病癖は癒らぬとの説の誤りなる所以

催眠術の實用的効果の第一番多いのは、治療上の効果である、故に殊に本章を設けて詳述する積りである、催眠治療にてはさう云ふ病癖が癒るか、に就ては種々の説があります。

其第一説は、先天性と後天性とに依て區別する説である、催眠治療で癒る病癖は後天性即ち生れた後に出来た病癖に限る、生れぬ前からあつた病癖即ち先天性(遺傳性)の病癖は癒らぬと云ふ説である、併しながら實驗上先天性の病癖も後天性の病癖も共に癒し得た實例が澤山にある、依て此説は採るに足らぬ、然

先天性の病癖後天性の病癖とは何ぞや

催眠治療の効果

し治療上慢性病より急性病の方が全治し易く、先天性よりも後天性の方が比較的癒し易いことは事實であります。

(二) 機質的病氣は癒るが機能的の病氣

は癒らぬとの説の誤りなる所以

第二説は機質的と機能的とに依りて區別する説である、分り易く言へば、解剖して見て、肉體の上に障害を來たして居る病氣は癒らぬ、障害のない病氣は癒ると云ふ説である、此説も實驗に依りて破れた、解剖的障害のある病氣でも癒つた例が續々有る、又解剖的障害のない病氣であつても容易に癒らなかつた例もある、それ故に第二説も動かすべからざる説でなく、比較的解剖的障害のない神経性の病氣が、癒し易いと云ふことに説が近頃は一致しました。

解剖的障害のある病氣も癒る

催眠は淺くても重病が確に癒る

(三) 能く催眠する人の病癖は癒るがよく催眠せない人の病癖は癒らぬと

の説の誤りなる所以

第三説は感受性の高低に依りて區別する説であつて、病氣其者によりて區別するのでなく、病人の性質によりて區別する説である。

催眠術によく感ずる性質の人の病氣は癒るけれども、催眠術に能く感じない人の病氣は癒ることが出来ない、言ひ換ふれば、催眠術に深くかゝる人の病氣は癒るけれども、催眠術が淺くしかかゝらぬ人の病氣は癒らぬと云ふ説がありま

す、絶對的に催眠術に少しもかゝらぬと云ふ人はない、淺くは皆かゝる、催眠感性が低くて、催眠は淺くても、其人の信念が高ければ重い病氣でも癒る、併

催眠治療の効果

しながら催眠感性が高くて人格變換が行はれるやうな、深い催眠状態となれば、如何なる重病も確に癒る、人格變換の行はるゝ様な深い催眠状態になることは、天性催眠感性が高くなければ行はれぬ、催眠感性が低くて、感せしか感せざるか分らぬ様な浅い催眠状態でも、相當の効果が確にある、故に此説も絶対的の眞理ではない、相對的の眞理である。

(四) 大家が癒せなかつた病氣は癒らぬ

との説の誤りなる所以

第四説は病名によりて區別する説である、此説は大家が今迄に催眠治療を行ふて、癒し得た病名を擧げて、癒し得ざる病名を省きさうして、斯く斯くの病氣は癒ると、病名で區別した説である、彼の斯界の大家たる「ベルンハイム」「リソギエール」「チコペンベルグ」「ウエツテルストランド」「フオーレル」氏など

大家が癒し得ざりし病氣を初學者が癒し得たことがある

病名同一にても重症と輕症とによりて治不治に大關係あり

が多年實驗したる結果、是々の病氣は癒つた、是々の病氣は癒らぬと云ふて病名を擧げて居る、其れに基いた説である、此説は或程度迄參考になります、けれども是が絶対的に動かぬ説ではありませぬ、其等の人々が癒らぬと言つた病氣でも、私が癒した例が澤山ある、其代り大家が既に癒し得た病氣でも、容易に癒らなかつた例もある、同じ病氣でも棄て、置いて自然に癒る輕症もある、如何に手を盡しても回復の見込なき重症もあるから、單に病名のみによりて、癒る癒らぬを區別することは出来ません。

(五) 癒る病氣と癒らぬ病氣とを區別する最良の方法

第五説は前の四説の折衷説である、此説が一番眞に近いと信じます、第一説の先天性と後天性に依て區別する場合に於ては、先天性よりは後天性の方が癒し

催眠治療の効果

施術を断るべき病人と施術を諾すべき病人とを定むる標

易いと思、第二説の機質的と機能的とに就ては機能的即ち解剖的障害のない病氣が癒し易いと見、第三説の感受性の高低に就ては、感受性の高いだけ癒し易いと見、第四説の病名に就ては既に癒し得た病氣は、未だ癒し得たことのない病氣より癒ると判断するのであります、即ち前記四説の長所を採りて以て極めるのが折衷説で此説が一番正鵠を得て居ると信じます、輕々敷施術すべからざる病人は、機質的の重病者、全身非常に衰弱して居て、病人の命旦夕に迫つて居る病人で、之等の病人は醫師の立合がなければ施術せないがよい、其他の患者は大概引き受け施術して差支ありません。

(六) 催眠治療で確に癒し得る著名の病癖

催眠治療にて癒し得る病癖は、前記の諸説に鑑みて判定するのである、併し多くの實驗上左記の病癖は確に癒し得る病癖であります。

斯る病癖は確に癒る

思癖

吃音、寢小便、小膽、強迫觀念癖、記憶、滅弱癖、思考力衰、判断力衰、意思薄弱、赤面癖、船車暈癖、飲酒癖、喫煙癖、潔癖、倦怠癖、交際下手癖

腦病脊髄病

頭痛、頭重、耳鳴、背柱彎曲症、神經痛、神經過敏、諸種の麻痺、諸種の疝痛、神經衰弱、歇私的里、不眠性、書癡、手足不隨、知覺異常、癱瘓質斯、脚氣、癩癩、諸種の痙攣、

精神病

妄想狂、鬱憂狂、消化不良、胃痙攣、胃擴張、腸胃加答兒、便秘、嘔吐。

呼吸器病

喘息、咽喉加答兒、眼病、眼精疲勞、色盲、夜盲症、近視、斜視、泌尿生殖器病、子宮病、月經異常、早漏、陰萎、遺精、

全身病

諸種の貧血、諸種の慢性中毒、

催眠治療の効果

悪癖を癒す薬はない

女催眠術  
此外尙外科手術を要せない病人、殊に薬のききめなき病人には効果がある、又如何なる病氣にても苦痛を去り病氣を苦しげざる様になる効力がある、如何なる病癖に罹れる病人に對しても、安心を興へ、病氣を苦しげない様にする効がある、これ丈けにても確に病人にとりては一大福音である、殊に悪癖は催眠治療に限る、悪癖を治して貰はんとて藥物治療を行ふも無効である、悪癖を癒す薬はない、之が催眠治療の大特色である。

### 第二節 藥物無効の病癖全治の實例

#### (一) 脊髓癆全治の實例

醫學上治療の途絶對なき病氣

最近醫學の進歩は實に著しく、藥物治療及び外科治療は非常なる發展をしたが、藥物治療及び外科治療に於ては絶對に癒し得ざる病氣がいろいろある、動脈硬化症、癌腫、肉腫、癩病、狼瘡、象皮病は醫術上目下の處癒し得ざる病氣である。

脊髓癆の様に癒つた

脊髓癆も藥物を以ては、治療の途が殆んどない、其脊髓癆が催眠治療に依つて不思議に癒つた例がある、嘗て脊髓癆患者某が東京〇〇〇〇病院へ永い間入院をして居たが、効果がなかつた、それが私の催眠治療によりて、嘘のやうに癒つた、其全快した患者は嬉しさの餘り、脊髓癆患者を見る毎に、私の治療の効を吹聴した、それによりて脊髓癆患者數多私の處へ來たが、夫れが悉く癒りました。

#### (二) 腦溢血全治の實例

腦溢血も輕症は癒る

腦溢血是れも藥物にては、殆んど治療の途がない、其腦溢血が癒つた、腦溢血も慢性でなければ全治する、非常に重症でなければ全治する、重症でも輕快にせしむることは出来る、併し此病氣を癒すには、施術回數は數十回を要します、

催眠治療の效果



只二三回の施術で罷めると不得要領に終ることがあります。

### (三) 癩瘰質斯全治の實例

薬で癒らな  
かつた癩瘰  
質斯が容易  
に癒つた

嘗て私が或地方に行つた時に、或る商店の女中で、非常に強い急性癩瘰質斯に罹つて、突然歩けなくなつた、醫療をなしたるも少しも癒らぬ、それで私の宿に連れて來るときは、荷車の上へ蒲團を敷いて其上に縛り附けて連れて來た、然るにそれが歸るときには飛んで歩いた、それを見た村の人が、どうも不思議だと驚いた、さう云ふ風に、雜作もなく癒つた實例が澤山ある、癩瘰質斯は慢性になると藥物では癒るに手間が取れる、それが催眠治療によりて雜作もなく全治します。

### (四) 神經衰弱全治の實例

私の處へ一女學生が來て「妾の神經衰弱の症候は數多あつて一々言ひ盡せぬから、此紙に悪い點を記して參りました」と云ひつゝ差出したるを見れば、次の如く記してありました。

治療して貰ひたき點。

- 一、頭がぼんやりする稀には頭痛がする。
- 一、始終詰らぬことと心を痛める。
- 一、何事にも飽き易い。
- 一、話が下手で人を喜ばせることが出來ぬ。
- 一、悪いことゝ知りながら其れが廢められぬ。
- 一、些細の事を苦にする。
- 一、音楽が容易に覺えられぬ。
- 一、神佛の有りがたいが判らぬ。
- 一、己の容貌以上に美しく人に見せたひ。
- 一、斯うすればよいと分りて居ることをせぬ。
- 一、年上の人の意見が氣にくはぬ。
- 一、父母の膝下にあるを嫌に思ふ。
- 一、臆病で小膽。

催眠治療の效果

恐ろしき神  
經衰弱の容  
體

女 催眠術

- 一、父母親戚友人及び知人が一として自分の爲にならぬ様に思はる。
- 一、汽車や汽船に乗ふ。
- 一、異性のことで常に妄想が絶えぬ。
- 一、少しのことに涙が出る。
- 一、視力弱く非常に明るい室ではまぶしい。
- 一、さもないことに腹が立つて堪まらぬ。
- 一、注意が一つに集まらぬ。
- 一、物覚えが悪くて忘れ易い。
- 一、事に當りて是非の判断に迷ふ。
- 一、英語が嫌ひで數學が下手で困る。
- 一、恐れでもよいことを恐る。
- 一、何をしても心の底より愉快と思はぬ。
- 一、身分不相應の美衣が欲しい。
- 一、父母に心配をかけるを何とも思はぬ。
- 一、労働を嫌ひ身體に樂をした。
- 一、何事でも斯うしようと思ふとせずには居らぬ。
- 一、磊落に快活に愉快に交際が出来ぬ。
- 一、甘い物が喰ひたい。
- 一、人の出世をねたむ。

異性のことで常に妄想が絶えぬ癖が癒つた

薬で癒らなかつた子宮病根治した

(五) 子宮病全治の實例

此數多の癖ありし女學生私の處へ通ふこと六回にして、悉く其惡癖消えて、快活な愉快な完全な人となりました。

一、無意識に不平が絶えぬ。  
 一、言葉が足らなくて後悔することあり又言ひ過ぎて後悔することがある。  
 一、無暗に新流行の衣服髪飾が欲しい。  
 一、矢鱈に物見逆山がしたい。  
 一、虚名でもよいから名を擧げたい。

聴し乍ら以上に列擧せる如き、不完全なる肉塊にて候、斯様な病癖が一つでもあつては、到底自分は出世は出来ぬ、精神的の大不具者と思ふ故是等の病癖は悉く消え失せ、人並の人間となる様に御施術ありたい

年齢三十一歳になる某紳士の夫人、子宮病にかゝり、白帶下其他の下物があり、足腰が冷え、下腹が痛み或は重い様な感じがし、月經が多くなり長びき、身體が瘦せて、氣が鬱き、顔色が青くなり、見るからに病人らしい、其原因は月經

催眠治療の効果

中の不攝生と亭主の痲菌の傳染による、其婦人は金持であるから、名醫と云ふ名醫にかゝり色々といふと云ふよい療法をしたが、治せざるとて來り、私の施術を受けたれば、忽ち春雪の消えるが如くに、病氣は失せて血色のいい福々した賢婦人となりました。

(六) ヒステリー全治の實例

三十五歳になる某大家の令婦人、昔から俗に云ふ血の道の病にかゝり、神經は過敏となり、少しのことが大きく氣にかゝり、氣が鬱ぎ、不性になり、我儘になり、心が變り易く、嫉妬深くなりてあられもないことを口走り、亭主の意見に反抗し、頭痛がし、働悸が高まり、食欲が減じ、秘結し、夜よく眠れず、月經が不順となり、時々痙攣を起し、手脚が痺れて感覺がなくなることもある、其原因は亭主の不品行に嫉妬を起したると、實家に不幸の事ありしを心配した

嫉妬の怒は喜びに變つた

る結果である、此奥さんを治療すること九回にして、今迄の悲觀は消えて樂觀となり、全く健康となり、快活な、愉快な奥さんとなりました。

(七) 月經異常全治の實例

月經異常の婦女を癒した實例數多の中より、三個丈左に擧げましょう。

(イ) 月經閉止 二十二歳の女學生、妊娠もしないのに月經がなくなつた、又二十五歳になつてまだ月經がない、夫れが爲に身體各所が悪い、此二人の女學生をして月經が順にある様に癒しました。

(ロ) 月經過多。十九歳の娘月經が常よりも多くなり、且長びき時には血の凝結が交ることがある、それを三回の施術によりて、月經が普通に順序よくある様になりました。

(ハ) 月經困難。三十五歳になる官吏の夫人、月經時に身體の工合が悪くなること催眠治療の効果

月經の閉止と過多と困難とが癒つた

女 催 眠 術

と人並以上で、下腹が激しく痛み、強い頭痛がし、神経が昂奮し、手脚が非常に冷えて嘔吐することがある、此夫人は三回の施術で、次後再び其苦痛を知らぬ様になりました。

前記の月経異常の病人は、悉く人に知らさぬ様に癒さんとして、賣薬を買ふて永く服用したるも、効果がなく慢性となり、醫者にかゝつても治せざりしに、私の治療によりて容易に癒りました。

(八) 膣炎全治の實例

膣炎が癒つた

二十三歳の若夫人膣炎にかゝり、膣の粘膜が腫れ熱くほてり、壓されるやうな感かして痛み、或は痒い、そして乳の様な膿の様な種々の帯下がし、血の交ることもある、而して身體が衰へ顔色眞青になり、秘結し、神経が過敏となり、怒りつばく、徒に悲しくなる、依て種々の療法を試みたるも治せないとして私

に治療を乞ふた、私が治療したら其多くの悪い點が悉く取れて、壯健の人となりました。

(九) 子宮内膜炎全治の實例

子宮内膜炎が癒つた

四十歳になる婦人子宮内膜炎にかゝり、下腹が痛み、子宮から水の様物が流れ出て、次で黄色の糊の様な粘い物が下り、内股から腰が引く様に痛む、骨盤の底の方に不快な感じがする、月経は多くて長く、腰や下腹等が痛む、貧血し便秘し頭痛がし、ヒステリーの氣味となつた、此婦人は賣薬を永く用ひたり、醫師にも永くかゝつたが、如何にしても癒らぬ、それが私の治療で全く生れ變りし様な健康の人となりました。

(一〇) 悪阻全治の實例

催眠治療の効果

女催眠術

二十三歳になる婦人、妊娠して二月目より毎朝空腹の時に悪心を催ふし、薄い液を吐き、三月目頃から次第に酷くなり、食べた物を直ぐ吐く許りでなく、空腹時にも粘り苦い液を吐き、胃が痛み口が渴き、總ての食物は嫌になり、不快で耐えられぬ、それが私の治療で其症候が悉く消へて、薩張りした人となつた悪阻は催眠治療によると何れも難作なく癒ります。

(二) 嫉妬に基く煩悶全治の實例

某夫人本夫は品行方正で、交際上美妓に酌をさせて遊ぶも、決して特別の關係を結ぶ様なことはない。確く信頼して居た、然るに親類の家で突然本夫に〇〇ありて子迄あることを聞き、大に驚き俄然失神状態になつた、漸にして普通状態とはなりたるも、夫れより月を見ても花を眺めても樂しみなく、悲哀を増すのみ、夫人は本夫の舉動に注意すると怪しきことのみ多い、彼も此も疑はしく

夫人本夫に催眠をかけさせられた

思はれ、煩悶懊腦の結果、頭痛がし食慾も進まず、多數人の前に出るのも嫌になり、自殺でもせんかなと思ふ事もあつた、其れで一日其夫人は私を訪ねて、窃に前陳の次第を語り、本夫の心の變る様な手段を相談せられた、私は其夫人に催眠術の奧儀を教授してあげ、本夫が夜睡眠中知れぬ様に催眠を施し、即ち睡眠を催眠に移し、夫人自ら「本夫は夫人以外の女は一切愛するは嫌だ」どの暗示を興ふることを熱心に七夜續けたら、全く主人の心改り、夫人の理想の通りとなり、家庭は圓滿に幸福を以て満たさるゝに至りました。

(三) 醜貌を美貌とせし實例

某成金の令嬢金のあるに任せて、衣服髪飾に善美を盡すと雖も、天性醜貌にして氣品に乏しく、娘盛りの年頃となりたるも良縁なく、悲觀の極、私を尋ねて治療を乞ふた、依て私は私獨特の治療にて目元口元に愛嬌を持たせ、顔を生

醜女美女に變つた

催眠治療の効果

生とならしめ、態度を磊落とし、言語を優美とならしめ、氣品を高尙にしたれば、全く別人の様になつた。

陰萎、遺精、夢精、早漏には効がある  
催眠治療は藥物にて癒らぬ病氣を治する殊色がある

此外種々な泌尿生殖器病に罹り、藥物療法、電氣療法、溫泉療法を多年試みたるも治せざりし病人を癒した實例は澤山にあります、殊に男子の陰萎、遺精、夢精、早漏には、催眠治療は實によく効きます、尙醫術上不治と認められた疾患が催眠治療に依て全治したる實例が未だ未だ澤山にあります、疾患中藥物にて癒せる者は、藥物にて癒すことを私は御勧め申します。藥物療法を如何程行ふても癒らぬ病人があつたら、始めて催眠治療を行ふて全治せしめてやるがよい、催眠治療の特色は藥石の効なき病氣と惡癖とを治する點にあります。

### 第十章 催眠治療診斷法

#### 第一節 催眠治療の診斷と藥物治

### 療の診斷と異なる點

#### (一) 催眠治療の獨特診斷法

藥物治療で診斷を誤ると大害がある

催眠治療の診斷法は如何にしたらよいか、藥物治療の診斷法は非常に難かしい、藥物治療で診斷を誤ると大害がある、例へば腎臓に結核菌が繁殖し居る故、切開して腎臓を切り取る必要ありと診斷して、切開して腎臓を切取つた、然るに腎臓に結核なくして、切開の必要なかつたに係らず切開したことがある。恐るべきではありませんか、之に反して催眠治療では診斷を誤りても何等の害もありません、例へば腦充血で頭痛がするのを、腦貧血で頭痛がすると誤斷して、頭痛が取れると暗示し頭痛を取つた、頭痛さへ取れば夫れで治療の目的は達せられて何の害もないからである、故に催眠治療の診斷法は、簡單で事足る、殊に醫師に非ざる素人は科學を應用して諸器械を用ひ精密にして正確なる診斷

催眠治療斷診法

法は望むも得られません、以下に非醫學者が催眠治療で癒る病人か否かを診断する法を述べませう、催眠治療でも診断を誤らすして、其原因を明にし治療せば是れに越したことはない。

(二) 催眠治療で癒る病人か否かを聞診する法

第一に聞診法を行ひます、被術者からいろいろ治療上参考となるべきことを聞いて、一々診療簿に記入し、癒るか癒らぬか、癒るとすればどう云ふ手段を採つたら宜いか、を定めます、催眠治療にては、主として精神上にどう云ふ障害があるかを診断することが肝要である、藥物治療の診断法は、精神病科は兎に角其の他の部門にあつては、餘り精神と云ふ方面に重きを置かぬ、藥物治療では詰り解剖上生理上にどう云ふ變化が來て居るかに就て診断致します、催眠治療の診断でも無論解剖上生理上如何に變化を來たして居るかに就て、診ます

催眠治療に  
ては精神に  
如何なる變  
態を來たし  
て居るか必  
要がある

氏名、住所、  
職業、年齢、  
發病の年月、  
日、經過、  
原因、遺傳、  
既往症、嗜  
好品、食慾、  
便通、睡眠を  
問診する

れども、それは從にして主として精神上に如何様な變態を來たして居るかを調べ、精神上的の變態を正態に復し、それに依つて以て肉體上に變化を及ぼさしむるのが催眠治療の根底であります、問診として患者の氏名、住所、職業、年齢、發病の年月日、病氣が起きてより今日迄の經過の有様、病氣の原因は何であるかの心當り、遺傳にあらざるか否や即ち血族親に病人あるや、病死者あるや、あらば其病名を聞き現在症との關係を考へ、既往症即ち以前病氣に罹りしことあらば、何病にかゝりしか、それから其人の嗜好品即ち酒とか、煙草とか、辛  
いものとか、甘いものとか、何が好きであるか、食慾が増進するか、一日に便  
通が何回あるか、夜よく眠れるか、夢を見るかどうか、從來如何なる治療をし  
たか、精神治療をしたことがあるかを尋ね、精神治療をしたと云はゞ、どう云  
ふ精神治療をしたか、其結果如何でありしかを聞いて、前にやつて効果がなか  
つた治療とは全く別の治療法を行ふことが必要である、神を信仰するか否かを  
催眠治療診断法

既往の治療法信仰の有無及び精神状態を問診する

女 催眠術

尋ね、信仰心ある者には其信仰心を助長して平癒を早からしめ、信仰心なき者には更に信仰心を起させる様に、それから精神の状態を主として診ます、其人の心が悲觀して居るか、樂觀して居るか、何か誤つたる觀念が固定して病癍となりて居りはせざるか、を知らんが爲に種々の質問をして、いろいろ話をさして、それを察知するのであります、そうして其人の肉體上及び精神上にある異状を觀破し、催眠治療で癒るか否かを定め、催眠治療で癒る病人であれば治療の方針を定めるのであります。

(三) 催眠治療で癒る病人か否かを望診する法

第二に望診法を行ひます、病人の顔と身體と局部とを見て察するのであります、先づ體格の良否即ち肥つて居るか、瘦せて居るかを見、皮膚の工合により營養

體格と營養の良否煩悶と苦惱の程度及び局部を望診する

の良否を察し、それから其人がどう云ふ容貌をして居るか、容貌に依て悲觀して居るか樂觀して居るかを察し、且つ煩悶の程度、苦惱の程度を察し、それから患部中見ることの出来る所は、どう云ふやうになつて居るかを見て察するのである、腕が痛むと云は、其痛む場所が如何様になつて居るかを見、又舌を見て白苔あれば胃の粘膜に熱があると察し、眼瞼を見て充血して居らば腦は充血して居ると察する如きことも致します。

(四) 催眠治療にて癒る病人か否かを觸診する法

第三に觸診法を行ひます、是は醫學上の診斷法を専攻せざる催眠治療家は極く簡単に致します、普通脈搏と呼吸と心臓の鼓動との工合は必ず見る、又顛顫動脈の工合、胃腸の工合、耳後部或は頸筋の淋巴線の如何を診ます、其他患者に

脈搏、呼吸、心臓を觸診する

催眠治療診斷法



よりて必要な點を診ます、即ち眼病なれば眼を見、腕が不隨の病人なれば腕を見るの類である、それ等の方法に依て、現在症の性質輕重を知り、豫後を察知し、此患者に對してはさう云ふ暗示をしたら宜いか、さう云ふ手段を採つたら効果が擧がるかを定めるのである、若し診断の結果、催眠治療は不適當と認めたら、其旨を患者に話して適當の療法を紹介してやるがよい、爰に注意すべきは、難病にて全治の道なき病人にても、病人に對しては難病であること、全治の道なきことは決して漏さず、安心する様に話すべきことである。

## 第二節 催眠治療を謝絶すべき病人

### (一) 藥物治療と催眠治療との長短

藥物治療を一概に排斥するは悪い

催眠治療家となつても藥物治療を攻撃し、排斥してはならぬ、催眠治療家中には藥物治療を極力排斥する人があるが、それは甚だ悪い、藥物治療は藥物治療

藥物治療の特色

としての特色がある、催眠治療は催眠治療としての特色がある、病氣に依ては藥物治療を推奨しなければならぬ場合が多い、それと同時に或る病氣に對しては、藥物治療は何等の効を奏せず、催眠治療に限る場合がある、故に病氣中藥物治療が適する者には藥物治療を行ひ、藥物治療では癒らぬ病氣に對して初めて催眠治療を行ふべきである。

### (二) 如何なる病人には藥物治療又は外科治療を勧むべきか

#### 科治療を勧むべきか

催眠治療所を開いて居るといふ病人が来る、其中には催眠治療ではないか、藥物治療又は外科治療を受ける必要ある病人が来ることもある、其時には遠慮なく、貴嬢の病氣は斯々の治療を受けると直に癒るから、某處へ行きなさいと云つて、適當の治療所を紹介してやる必要がある、そうせずして何でも

催眠治療診断法

催眠治療は如何なる病人には適せぬか

来る病人を引き留めて、自分の催眠治療のみを受けしむることは、術者の信用を失する基となると共に、病人の爲めにもならぬ、故に私は病人中催眠治療が不適當と思ふ病人には、他の治療所を紹介してやるを常とする、つい先頃私の所へ手足の不随になつた病人が參つた、其の原因を調べて見た所、原因は腦腫瘍にあることを發見した、詰り腦に腫瘍が出来て居る爲に起つたのである、腦腫瘍は催眠治療のみをやつて居つてはいけない、大家の大手術を早く受ける必要があると認めたら外科の大醫に行くがよいと申して紹介をしてやつた、又梅毒が基でいろ／＼な病氣が起き、其病氣を癒さうとして來た病人がある、其病人は催眠治療だけでは不十分と思ふたから、醫師に就き六〇六號を注射して貰ひ、驅微療法を行ひて原因を除くことを勧め、病院へ紹介してやつた、斯る事實は澤山にあるが、此處には參考までに其一例を擧げたに過ぎません。

### 第十一章 催眠治療を行ふ方法

#### 第一節 催眠治療暗示法

##### (一) 病癡治療の三大暗示法

催眠治療は病人を催眠状態にして置き、其病氣が癒る暗示をするのである、其暗示はごうしたらよいか、豫め診斷法に依り病氣の原因症候等を明らかにして置き、それに依て以て暗示の方針を定め、次の順序によりて三段に暗示を行います。

第一に病癡の原因を除去する暗示を致します、頭痛がする病人なれば其頭痛の原因は何であるかを確かめ、其原因を除く暗示をします、頭痛の原因は生殖器が悪くて起りしか、或は煩悶した爲に起つたのであるか等の原因を確かめ置き、生

病癡の原因を除去する暗示法

殖器から来て居れば「生殖器は健全になつた」と暗示を與へる、煩悶から来て居れば「もふ何事も安心して何事も心配せぬ」と暗示を與へる、而して原因が除去せらるれば、其餘波たる頭痛は直に消へて仕舞ひます。

現在症治療の暗示法

第二には現在症を癒す暗示を致します、現に頭痛がして居れば「頭痛は癒つた」「頭は爽快になつた」と暗示を致します。

攝生法遵守の暗示法

第三には「攝生法をよく遵守する」と暗示を致します、頭痛のする病人なれば「何事も安心して心を平和に持ち、頭を過度に使はぬ、適當の運動をなし深呼吸をする」と云ふやうに、其病氣に對して必要な攝生法を遵守するやうに暗示をする、攝生法は唯話したゞけでは、確に守る患者は少ないが、暗示をすれば知らず識らず其攝生法をよく遵守する。

治療の暗示は以上の三段に行ふのを原則とします、其中の一段の暗示又は一症候を治療せんが爲に行ふ暗示に種々の形式がある、次に之を述べませう。

### (二) 治療暗示の十二大法

類似暗示法

治療の暗示を形式によりて區別しますと、左の十二種となります。

第一に類似暗示法を述べます、是は頭痛がする病人であれば、先づ止動状態の催眠となし置き、其手を其頭に堅く附着せしめ「離れない」と暗示すれば離れぬ「離れる」と暗示すれば離れる、即ち「暗示通りに手がなる如く、暗示の通りに頭痛が取れる」「頭は爽快になつた」と暗示すれば其暗示通りになる、之は手が暗示によりて随意不随意になると、治療の暗示とを類似せしめて効を擧ぐる方法である。

力心暗示法

第二は力心暗示法です、術者が精神力を統一して、「頭痛は取れた」「頭は爽快になつた」と強く觀念する、其觀念は病人が健康體になつたることを心像にありありと見ゆる程度までにするのである、其術者の觀念が病人の精神に感應して、

催眠治療を行ふ方法

術者の観念通りに癒ります。

口頭暗示法

第三は口頭暗示法です、言語を以て「頭痛は取れた、頭は爽快になつた、何事も氣にかゝらぬ、何事も安心する」と云ふやうに口頭で暗示をする方法であります。

合圖暗示法

第四は合圖暗示法、之は「一、二、三それ頭痛は取れた、頭は爽快になつた」と云ふやうに暗示を致します、或は「五回私が君の頭を撫でると頭痛が取れて、頭は爽快になる」と暗示して置いて「一回、二回、三回、四回、五回それ頭痛は取れて頭は爽快になつた」と云ふやうに暗示を致します。

氣合暗示法

第五は氣合暗示法、之は「私が今エイツと氣合をかけると、あなたの頭痛は取れて頭は爽快になる」と暗示をして置き、下腹部から心力を凝めて熱烈に「エイツ」と大喝一聲すると、頭痛は取れ頭は爽快になる。

觸接暗示法

第六は觸接暗示法、之は術者の手掌に精神力を凝めて、痛む局部を直狀若くは

指先暗示法

輪狀に軽く撫でます、手掌に代へて催眠治療具、一名パーキンスと云ふ金屬製小軍扇形の具を以て局部に當て心力を凝めて輕撫すると最もよい。

第七は指先暗示法と云ひて、術者の右手の中指と中指との二指を伸ばし、他の三指を堅く握り、其伸ばせる二指の先に力を凝め患部に近づけ、一二寸距て置き、術者精神を統一して、其指先より患部に一の靈氣傳はりて癒ると熱烈に観念する、然ると患部は治するものであります。

舉動暗示法

第八は舉動暗示法、之は患部に充血して居るのであれば、其充血を解く舉動を手の先にてなしつゝ、充血は取れると強く観念するのである、其他患部の治する舉動を患部に觸れずにするのであります。

神力暗示法

第九は神力暗示法、之は催眠者に向ひ「私が今神様を祈るそうすると君の病氣は直に全癒する」と暗示して置きます。

吐普加身依身多女坎良震巽離坤兌乾波羅伊玉意喜餘目出玉(三種の大祓)  
催眠治療を行ふ方法